

DJミキサー

DJM-A9

pioneerdj.com/support/

rekordbox.com

上記のサイトで、本製品の最新のソフトウェア情報やFAQなどのサポート情報をご覧いただけます。

もくじ

はじめに	5
本書の見かた	5
付属品を確認する	5
マニュアルを閲覧する	5
PRO DJ LINK について	6
各部の名称	8
コントロールパネル	8
本体フロント部	9
本体リア部	10
PC / Mac の準備	13
専用ソフトウェアのインストール	13
設定ユーティリティを使う	15
接続 (基本スタイル)	21
入力端子に接続する	21
出力端子に接続する	22
コントロールパネル / 本体フロントの端子に接続する	23
外部エフェクターを接続する	24
音声出力	25
チャンネルセクション / マスターセクション / フェーダーカーブ セクション	26
音声を出力する	29
チャンネル音声の音質を調整する	30
フェーダーカーブを設定する	30
音声の左右バランスを調整する	30
音声モニター	32
HEADPHONES (A / B) セクション	32

ヘッドホンで音声をモニターする	33
ブースセクション	34
ブースモニターを使う	34
マイク	35
MIC セクション	35
マイクを使う	37
SOUND COLOR FX	38
SOUND COLOR FX セクション	38
SOUND COLOR FX を使う	39
SOUND COLOR FX の種類と設定方法	40
MULTI I/O	42
MULTI I/O セクション	44
MULTI I/O を使う	45
BEAT FX	47
BEAT FX セクション	48
本体表示部	50
BEAT FX を使う	51
BPM を手動で設定する	52
BEAT FX の種類と設定方法	53
USB / MIDI	58
USB / MIDI セクション	58
MIDI 対応ソフトウェアを操作する	59
BLUETOOTH	60
BLUETOOTH セクション	60
Bluetooth 機器と接続する	61
Bluetooth 機器を使う	61
無線 LAN (Wi-Fi)	62
無線アンテナの取り付け／取り外し	62
無線 LAN (Wi-Fi) を設定する	64

無線ネットワークに接続する	65
無線 LAN (Wi-Fi) の情報を表示する	72
LAN の情報を表示する	73
設定	74
UTILITY 画面	74
設定を変更する	75
UTILITY 設定項目	76
MY SETTINGS を記録メディアに保存する	84
記録メディアから MY SETTINGS を呼び出す	85
サウンドチェックを行う	86
初期設定に戻す	87
スペック	88
仕様	88
ブロックダイヤグラム	91
その他	93
故障かな?と思ったら	93
液晶画面について	97
商標および登録商標について	98
ソフトウェアのライセンス	99
著作権	106

はじめに

本書の見かた

- このたびは、Pioneer DJ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本書と、本機に付属している「クイックスタートガイド」および「使用上のご注意」を必ずお読みください。すべて、この製品の使用前にご理解いただくべき重要事項が含まれています。
- 本書では、製品本体、PC／Mac画面、およびモバイルデバイス画面に表示されるメニュー名、ボタン名および端子名などを、[] で囲んで記載しています。(例：[ファイル]、[CUE] ボタン)
- 本書で説明しているソフトウェアの画面と仕様、およびハードウェアの外観と仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書で説明している手順については、OS のバージョン、ウェブブラウザの設定などにより記載の動作と異なる場合があります。
- 本書で説明しているソフトウェアの画面の言語が、実際の画面の言語と異なる場合があります。

付属品を確認する

- 電源コード×1
- 保証書（一部の地域）*1 ×1
- クイックスタートガイド×1
- 使用上のご注意×1

*1 欧州向け製品のみ。（日本向け、北米地域は「使用上のご注意」に記載されています。）

マニュアルを閲覧する

❖ rekordbox：イントロダクション、操作説明書

「イントロダクション」は、rekordbox のセットアップ方法を記載しています。

「操作説明書」は、rekordbox の操作方法を記載しています。

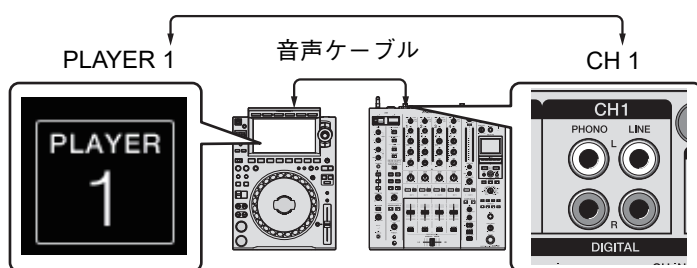
下記のrekordboxサイトをご確認ください。

rekordbox.com/manual

PRO DJ LINK について

PRO DJ LINK 対応のマルチプレーヤーや、rekordbox がインストールされている PC / Mac と本機を LAN ケーブルで接続すると、PRO DJ LINK 機能を利用できます。

- スイッチングハブを使って接続すると、マルチプレーヤーを4台まで、PC / Mac は2台まで接続できます。
- 100BASE-TX 対応で、マルチプレーヤーにも対応のスイッチングハブを使用してください。スイッチングハブによっては正常に動作しないことがあります。
- マルチプレーヤーのプレーヤー番号は、音声ケーブルを接続したチャンネルと同じ番号に設定してください。



- PRO DJ LINK については、マルチプレーヤーの取扱説明書と rekordbox の操作説明書も参照してください。

pioneerdj.com/support/

❖ クオンタイズ

あらかじめ rekordbox で解析した楽曲を利用すると、[BEAT FX] セクションの [ON/OFF] ボタンや X-PAD をラフに操作しても、rekordbox で解析された楽曲の GRID 情報をもとに、再生中の楽曲のテンポとずれることなくエフェクトを加えることができます。

❖ LINK MONITOR

PC / Mac の rekordbox やマルチプレーヤーの楽曲を再生中にもブラウジングができ、ブラウジング中の楽曲や再生中以外の音声をヘッドホンでモニターできます (32 ページ)。

- rekordbox の音声をモニターするには、あらかじめ rekordbox の [環境設定] → [オーディオ] で [PIONEER DJ ミキサーの「LINK MONITOR」機能を使用する] にチェックを入れてください。
- マルチプレーヤーが LINK MONITOR 機能に対応していない場合は、マルチプレーヤーの音声をモニターすることはできません。

❖ STATUS INFORMATION

マルチプレーヤー上でオンエア状況を確認できます。

❖ Stagehand

Pioneer DJのマルチプレーヤーやミキサーのステータスを確認したり、遠隔操作するタブレット用のアプリケーションです。

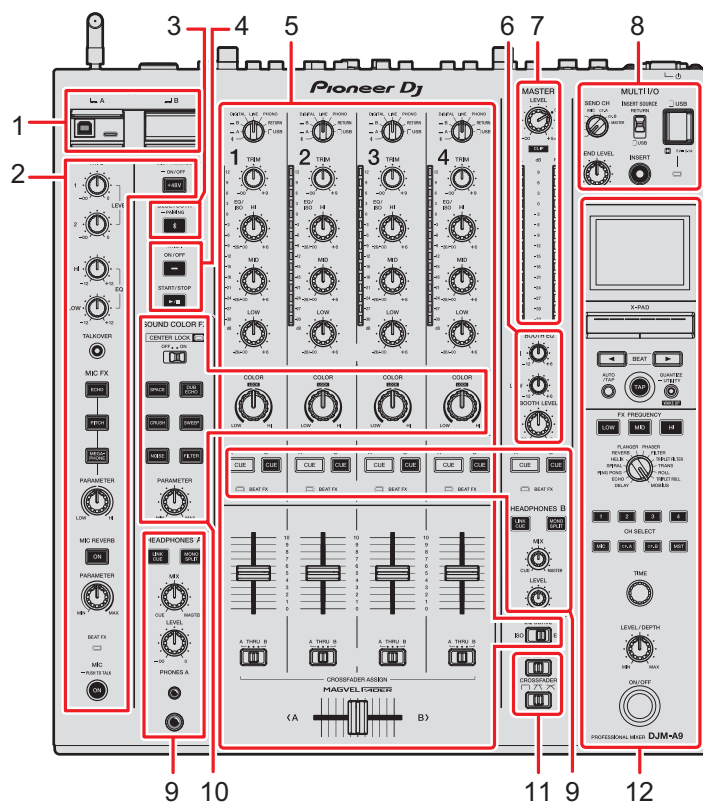
- Stagehandは、PRO DJ LINKで利用することができます。
- 詳しくは、Stagehandの取扱説明書とrekordboxの操作説明書を参照してください。

pioneerdj.com/ja-jp/product/software/

rekordbox.com/manual

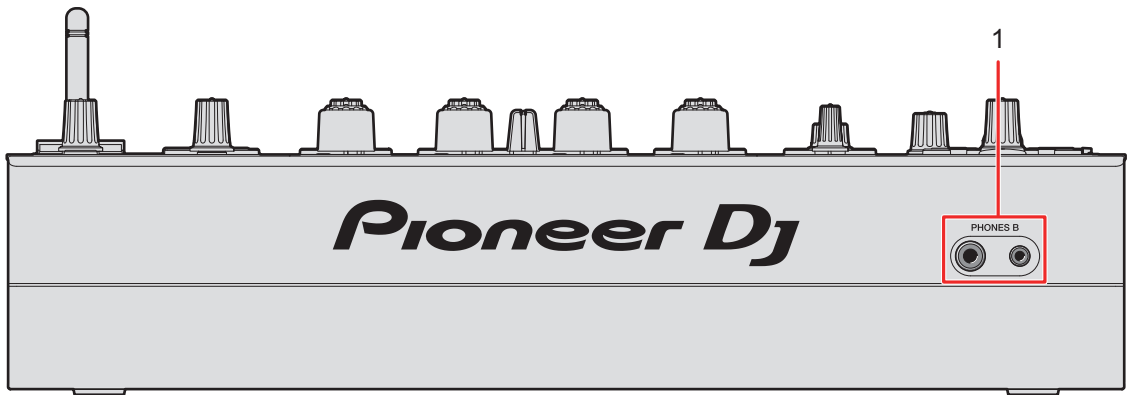
各部の名称

コントロールパネル



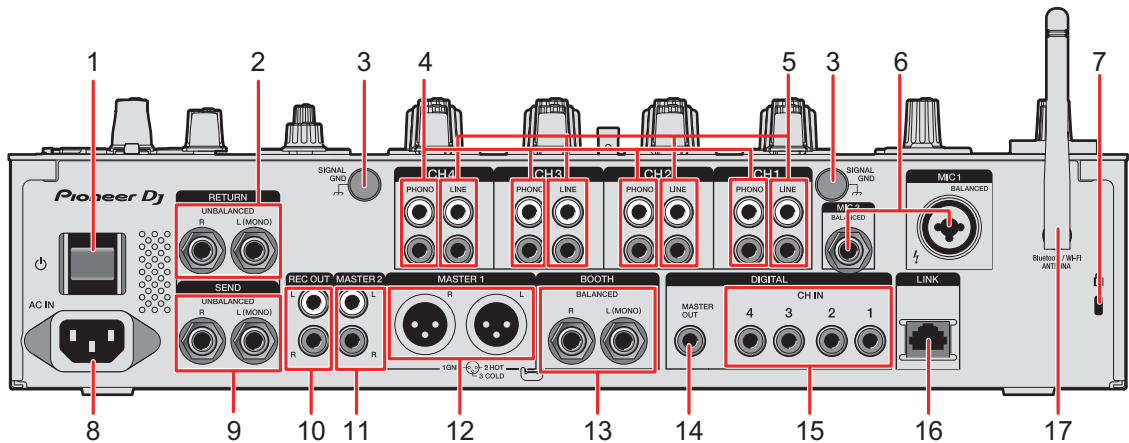
1. **USB** セクション (58 ページ)
2. **MIC** セクション (35 ページ)
3. **BLUETOOTH** セクション (60 ページ)
4. **MIDI** セクション (58 ページ)
5. **チャンネル** セクション (26 ページ)
6. **ブース** セクション (34 ページ)
7. **マスター** セクション (26 ページ)
8. **MULTI I/O** セクション (44 ページ)
9. **HEADPHONES (A / B)** セクション (32 ページ)
10. **SOUND COLOR FX** セクション (38 ページ)
11. **フェーダーカーブ** セクション (26 ページ)
12. **BEAT FX** セクション (48 ページ)

本体フロント部



1. PHONES B端子 (23ページ、33ページ)

本体リア部



1. 〇ボタン

本機の電源をオン／オフします。

⚠ 注意

製品の仕様により、本体部やリモコン（付属の場合）のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ（遮断装置）に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

2. RETURN 端子 (1/4" / 6.35 mm、TS) (24 ページ)

外部エフェクターの出力端子と接続します。

- [L (MONO)] だけに接続すると、[L (MONO)] に入力される音声は [R] にも入力されます。

3. SIGNAL GND 端子 (21 ページ)

ターンテーブルのアース線を接続します。ターンテーブル接続時の雑音を低減します。

4. PHONO 端子 (RCA) (21 ページ)

フォノレベル (MM カートリッジ用) の出力機器を接続します。

- ラインレベルの信号は入力しないでください。

- **[PHONO]** 端子接続時は、ショートピンプラグを取り外してください。このショートピンプラグは、**[PHONO]** 端子に何も接続しないときに外部ノイズをカットするために差し込んで使います。

警告

ショートピンプラグは幼児の手の届くところに置かないでください。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。

5. **LINE 端子 (RCA)** (21 ページ)
マルチプレーヤーやラインレベルの出力機器を接続します。
6. **MIC 1 端子 (XLR または 1/4" / 6.35 mm、TRS)** , **MIC 2 端子 (1/4" / 6.35 mm、TRS)** (21 ページ)
7. **ケンジントンロック装着用穴**
盗難防止用のワイヤーロックを装着します。
8. **AC IN** (21 ページ)
付属の電源コードで、コンセントと接続します。
9. **SEND 端子 (1/4" / 6.35 mm、TS)** (24 ページ)
外部エフェクターの入力端子と接続します。
 - **[L (MONO)]** 端子のみ接続すると、モノラル音声を出力します。
10. **REC OUT 端子 (RCA)** (22 ページ)
録音用の出力端子です。
11. **MASTER 2 端子 (RCA)** (22 ページ)
パワーアンプなどのアナログ入力端子と接続します。
12. **MASTER 1 端子 (balanced XLR)** (22 ページ)
パワーアンプなどのアナログ入力端子と接続します。
 - 必ずバランス出力として使用してください。
 - ほかの製品の電源コードを接続しないように注意してください。
13. **BOOTH 端子 (1/4" / 6.35 mm、TRS)** (22 ページ)
ブースモニター用の出力端子です。
 - 必ずバランス出力として使用してください。
 - **[L (MONO)]** 端子のみ接続すると、モノラル音声を出力します。
14. **DIGITAL MASTER OUT 端子 (RCA)** (22 ページ)
プリアンプなどのデジタル端子と接続します。マスター音声を SPDIF フォーマットで出力します。
 - アナログ入力端子に接続しないように注意してください。

15. **DIGITAL CH IN 端子 (RCA)** (21 ページ)

マルチプレーヤーなどのデジタル同軸出力端子と接続します。

- 出力信号のサンプリング周波数が切り換わったときに、音声が一瞬とぎれることがあります。

16. **LINK 端子** (21 ページ)

rekordbox がインストールされている PC / Mac、または PRO DJ LINK 対応のマルチプレーヤーの LINK 端子と接続します。

- 複数の機器と接続するときはスイッチングハブ (市販 / 100BASE-TX 対応) を使用してください。

17. **無線アンテナ** (62 ページ)

Wi-Fi または BLUETOOTH を使用するときは、無線アンテナを立ててください。

PC / Mac の準備

本機にPC / Macの音声を入力 / 出力する場合は、お使いのPC / Macにあらかじめ専用オーディオドライバーソフトウェア / 設定ユーティリティをインストールしてください。

PC (Windows) をお使いの場合は、専用ソフトウェアをインストールすると、専用オーディオドライバーソフトウェアおよび設定ユーティリティが同時にインストールされます。

Macをお使いの場合は、設定ユーティリティのみインストールされます。

- 最新の動作環境、互換性、および対応OSに関する情報は、下記のPioneer DJサイトを参照してください。

pioneerdj.com/support/

- 動作環境を満たしているすべての機器における動作を保障するものではありません。
- 1台のPC / Macに、本機を複数台接続した場合の動作は保証しません。
- 専用オーディオドライバーソフトウェアがインストールされていないPC (Windows) を本機に接続すると、環境によってはPCにエラーが発生することがあります。
- お使いのPC / Mac上のソフトウェアとの組み合わせによっては、動作に不具合が発生することがあります。

専用ソフトウェアのインストール

❖ インストールについてのご注意

- インストールする前に、本機の電源をオフにし、本機とPC / Mac を接続しているUSBケーブルを取り外してください。
- 専用ソフトウェアをインストールする前に、PC / Mac上のすべてのアプリケーションを終了してください。
- 専用ソフトウェアをお使いのPC / Macにインストールするには、管理者権限が必要です。
- インストールする前に、「ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。
- インストールを途中で中止したときは、はじめからインストールをやり直してください。
- インストールが完了するまでは、本機とPC / Macを接続しないでください。
- すべてのPC / Mac環境において動作保証するものではありません。

専用ソフトウェアを入手する

- 1 下記のサイトにアクセスする

pioneerdj.com/support/

- 2 [ソフトウェア更新情報] をクリックする
- 3 [DJ ミキサー] カテゴリー内の [DJM-A9] をクリックする
- 4 [Drivers] をクリックする
- 5 [ダウンロードリンク] をクリックして、ファイルを保存する

- お使いのPC / Mac によって、PC (Windows) または Mac のいずれかの専用ソフトウェアをダウンロードしてください。

専用ソフトウェアをインストールする

- 1 ダウンロードした専用ソフトウェアを解凍する
- 2 インストールファイルをダブルクリックする
 - PC (Windows) をお使いの場合は“DJM-A9_#.###.exe” を、Mac をお使いの場合は“DJM-A9_M_#.###.dmg” → “DJM-A9SettingUtility.pkg” をダブルクリックしてください (#は専用ソフトウェアのバージョン表示)。
- 3 「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する] にチェックを入れて [OK] をクリックする
 - 「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意しないときは、[同意しない] (Macの場合) / [キャンセル] (Windowsの場合) をクリックして、インストールを中止してください。
- 4 画面の指示にしたがって、インストールする

設定ユーティリティを使う

PC / Macにインストールされている設定ユーティリティを使って、本機とPC / Macの接続の設定や確認ができます。

設定ユーティリティを表示する

❖ Macをお使いの場合

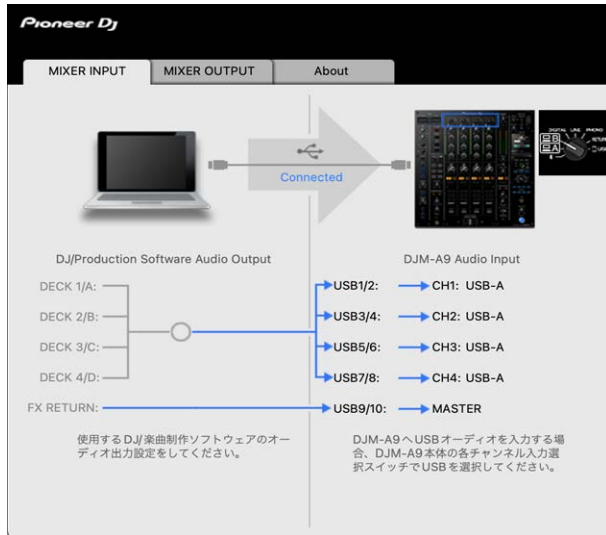
- 1 Finderで [アプリケーション] フォルダを開く
- 2 [Pioneer] → [DJM-A9] → [DJM-A9 設定ユーティリティ] をクリックする

❖ PC (Windows) をお使いの場合

- 1 スタートメニューから [Pioneer] → [DJM-A9 設定ユーティリティ] をクリックする

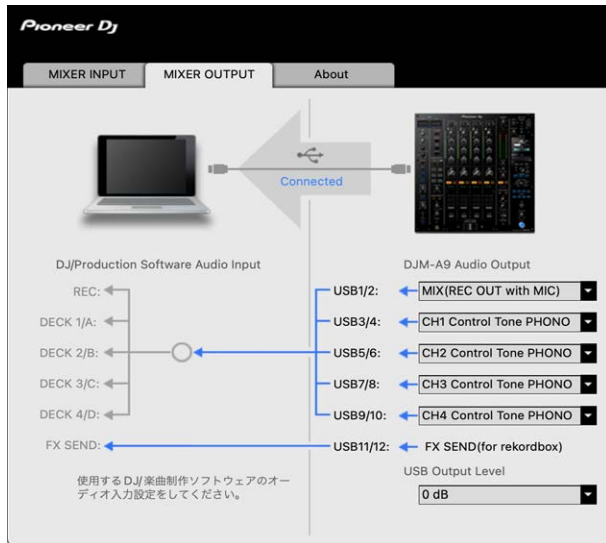
本機の入力切替えスイッチの状態を確認する

1 [MIXER INPUT] タブをクリックする



本機から PC / Mac への音声データ出力を設定する

- 1 [MIXER OUTPUT] タブをクリックする
- 2 [DJM-A9 Audio Output] のプルダウンメニューをクリックし、本機から PC / Mac へ出力する音声を選択する



☞ 「DJM-A9 Audio Output のプルダウンリスト一覧」 (20 ページ)

- 3 [USB Output Level] のプルダウンメニューをクリックし、本機から出力する音量を選択する

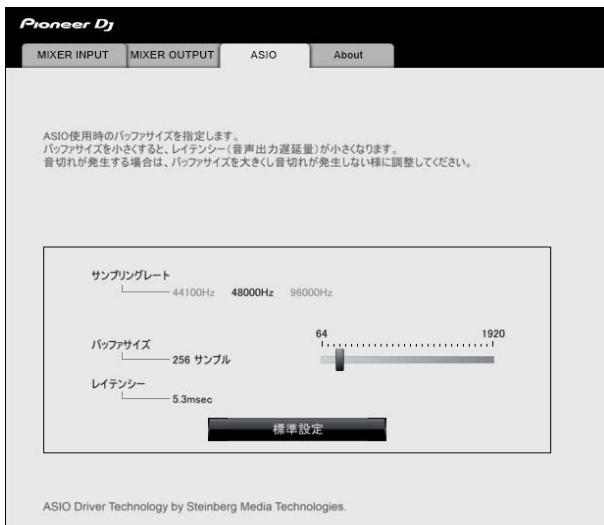
- DJソフトウェアの音量調整で十分な音量が得られないときは、[USB Output Level] で音量を調整します。音量を上げすぎると音声が歪むことがあります。ご注意ください。

バッファサイズを調整する（Windows ASIO 使用時）

- 本機を既定のオーディオデバイスとして利用しているアプリケーション（DJソフトウェアなど）が起動している場合は、終了してからバッファサイズを調整してください。

1 [ASIO] タブをクリックする

2 スライダーでバッファサイズを調整する



- バッファサイズを大きくすると、音声データの脱落（音とぎれ）などは発生しにくくなりますが、音声データの伝送遅延（レイテンシー）によるタイムラグが増大します。

ファームウェアとドライバーソフトウェアのバージョンを確認する

1 [About] タブをクリックする



DJM-A9 Audio Output のプルダウンリスト一覧

- USB11/12 は、[FX SEND(for rekordbox)] 固定です (対応ソフトウェアで使用可能です)。
: チャンネル番号

USB 1/2	USB 3/4、USB 5/6、USB 7/8、USB 9/10
MIX(REC OUT with MIC) ^[1]	CH# Control Tone PHONO ^[2]
Pre CH1 Fader	CH# Control Tone LINE ^[2]
Pre CH2 Fader	CH# Control Tone DIGITAL ^[2]
Pre CH3 Fader	Pre CH# Fader
Pre CH4 Fader	Post CH# Fader
Post CH1 Fader	CROSSFADER A
Post CH2 Fader	CROSSFADER B
Post CH3 Fader	MIC
Post CH4 Fader	MIX(REC OUT with MIC) ^[1]
CROSSFADER A	MIX(REC OUT without MIC) ^[1]
CROSSFADER B	-
MIC	-
MIX(REC OUT without MIC) ^[1]	-

^[1] 録音用途以外で使用するときは、音声のループが発生しないよう DJ ソフトウェアの設定に注意してください。音声のループが発生すると、意図していない音量の音声が入出力される可能性があります。

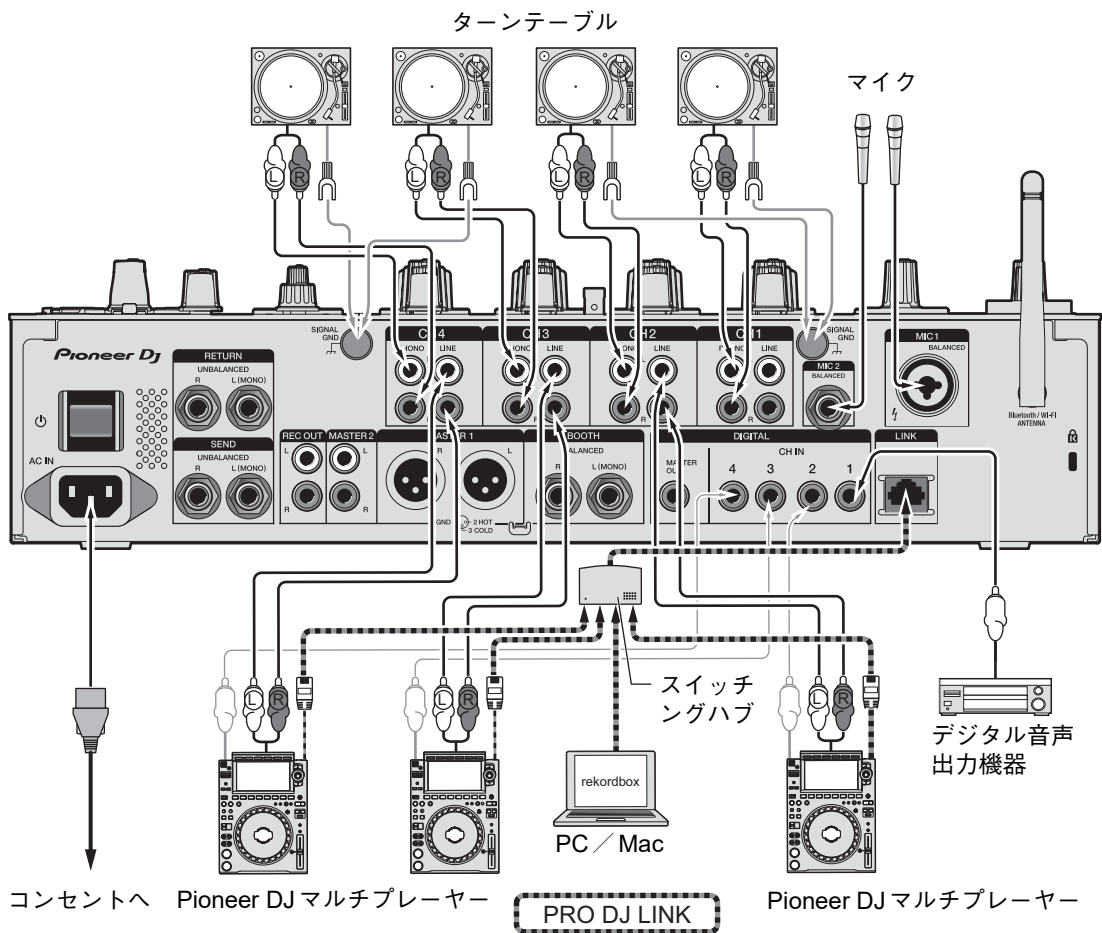
^[2] 対応ソフトウェアで使用可能です。[USB Output Level] の設定に関係なく、本機に入力された音量のまま出力されます。

接続（基本スタイル）

接続を行う前に、必ず本機の電源をオフにし、電源コードを抜いてください。
電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。

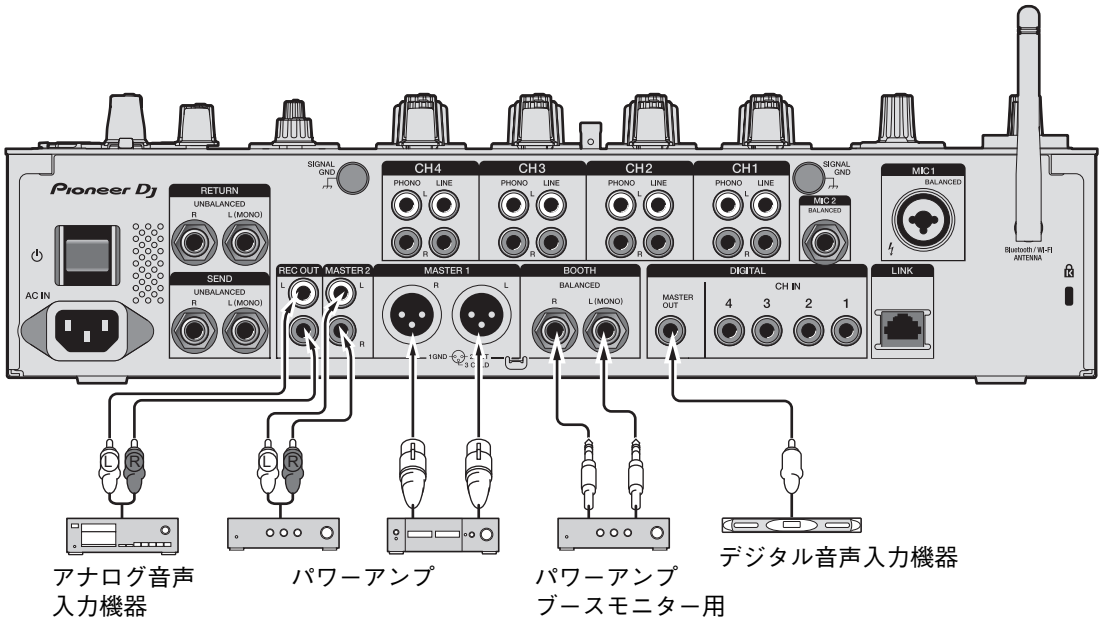
- 付属の電源コードを使用してください。
- 接続する機器の取扱説明書も参照してください。
- 有線LANの接続には、CAT5e以上のSTPケーブルを使用してください。
- PRO DJ LINKを使用しているときは、LANケーブルを取り外さないでください。

入力端子に接続する



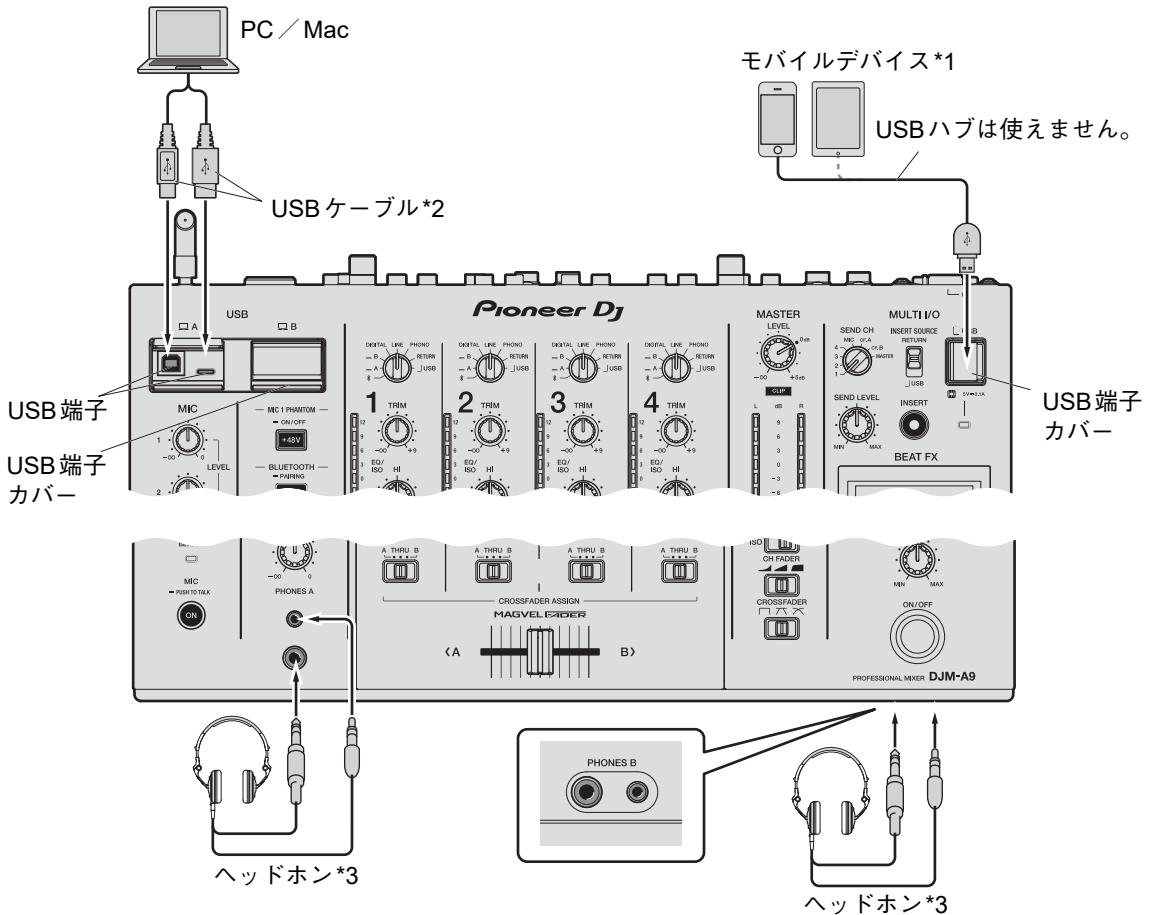
🔄 「PRO DJ LINKについて」(6 ページ)

出力端子に接続する



- **[MASTER 1]** 端子は、必ずバランス出力として使用してください。XLR-RCA変換ケーブル（変換アダプター）などを使ってアンバランス入力（RCAなど）へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生することがあります。
- アンバランス入力（RCAなど）への接続には、**[MASTER 2]** 端子を使用してください。
- **[BOOTH]** 端子は、必ずバランス出力として使用してください。アンバランス入力へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生することがあります。
- **[MASTER 1]** 端子にほかの製品の電源コードを接続しないように注意してください。

コントロールパネル／本体フロントの端子に接続する



*1 モバイルデバイスを接続する場合は、モバイルデバイスに付属のケーブルを使用してください。本機に接続可能なモバイルデバイスについては、下記のPioneer DJサイトを参照してください。

pioneerdj.com/support/

*2 本機とPC/Macは、直接USBケーブルで接続することを推奨します。USBハブを使用する場合は、お使いになるPC/Macのメーカー推奨製品を使用してください。すべてのUSBハブの動作を保証するものではありません。

*3 ヘッドホンはフォーンジャック、ミニジャックどちらか一方に接続してください。両方の端子を同時に使用すると、音質が悪くなったり、音量が小さくなったりする場合があります。

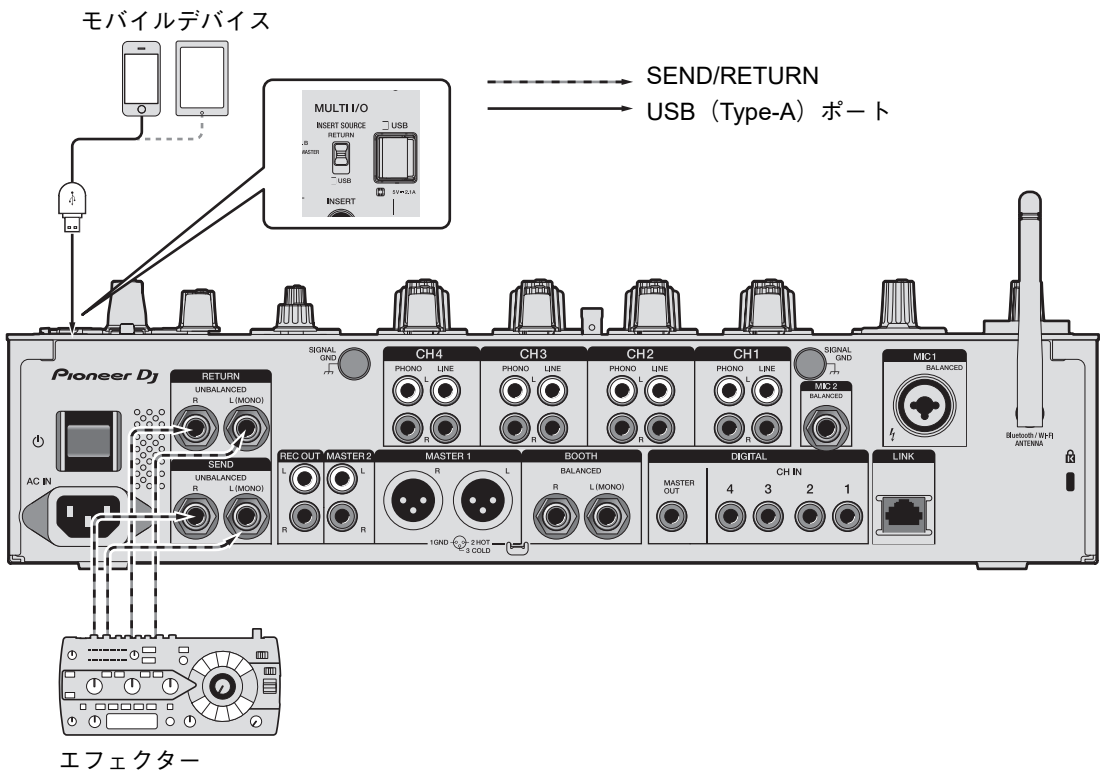
- USB Type-BまたはUSB Type-C端子には、モバイルデバイスは接続できません。
- 本機にPC/Macの音声を入力/出力する場合は、お使いのPC/Macにあらかじめ専用ソフトウェアをインストールしてください（13ページ）。
- USB端子カバーを強く押したり、引っ張ったりしないでください。破損の原因となります。

外部エフェクターを接続する

MULTI I/O を使う

MULTI I/O で外部エフェクター／モバイルデバイスを使用することができます。以下のとおりに接続してください。

- － [SEND] 端子（出力端子）→ エフェクター → [RETURN] 端子（入力端子）
 - － モバイルデバイス接続用端子（USB 端子）（入出力端子）→ モバイルデバイス
- ・ エフェクターは [RETURN] 端子（入力端子）にも接続してください。



📖 「MULTI I/O」 (42 ページ)

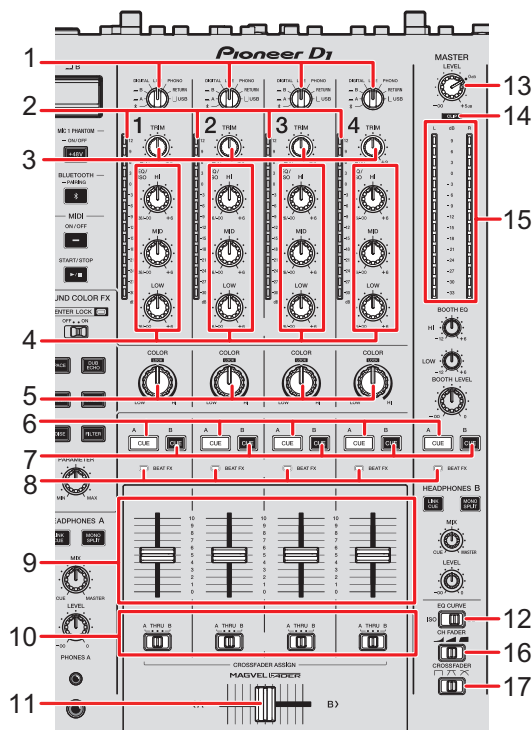
音声出力

以下の操作を行って、音声を出力します。

- － 「音声を出力する」 (29 ページ)
- － 「チャンネル音声の音質を調整する」 (30 ページ)
- － 「フェーダーカーブを設定する」 (30 ページ)
- － 「音声の左右バランスを調整する」 (30 ページ)

🔊 **[BOOTH]** 端子から音声を出力する方法については、「ブースモニターを使う」 (34 ページ) を参照してください。

チャンネルセクション／マスターセクション／ フェーダーカーブセクション



❖ チャンネルセクション

1. 入力切替えスイッチ

入力音声を選択します。

- [※] : Bluetooth接続しているPC / Macやモバイルデバイス
- [A, B] : [USB] 端子に接続しているPC / Mac
- [DIGITAL] : [DIGITAL CH IN] 端子に接続しているマルチプレーヤー
- [LINE] : [LINE] 端子に接続しているマルチプレーヤーなど
- [PHONO] : [PHONO] 端子に接続しているターンテーブル
- [RETURN] : [RETURN] 端子に接続している機器のエフェクト音
- [USB] : モバイルデバイス用接続端子に接続している機器のエフェクト音

2. チャンネルレベルインジケータ

チャンネルフェーダー通過前の音量を表示します。

3. TRIM ノブ

チャンネルの入力音声の音量を調整します。

4. EQ/ISO (HI, MID, LOW) ノブ

各音域の音質を調整します。

各ノブで調整できる音域は以下のとおりです。

- [HI] : -26 dB ~ +6 dB
- [MID] : -26 dB ~ +6 dB
- [LOW] : -26 dB ~ +6 dB

5. COLOR ノブ (38 ページ)

6. CUE A ボタン (33 ページ)

7. CUE B ボタン (33 ページ)

8. BEAT FX インジケーター

[CH SELECT] ボタンで選択されているチャンネルの BEAT FX インジケーターが点灯します。

9. チャンネルフェーダー

[CH FADER] スイッチで選択されているカーブ特性にしたがって、音声を出力します。奥側へスライドすると音量が上がります、手前へスライドすると音量が下がります。

10. CROSSFADER ASSIGN (A, THRU, B) 切替えスイッチ

各チャンネルの出力音声をクロスフェーダーに割り当てます。

- [A] : [A] (左) 側に割り当てます。
- [THRU] : クロスフェーダーを使用しません。
- [B] : [B] (右) 側に割り当てます。

11. クロスフェーダー

[CROSSFADER] スイッチで選択されているカーブ特性にしたがって、音声を出力します。[A] 側へスライドすると [A] 側に割り当てられているチャンネルの音声を、[B] 側へスライドすると [B] 側に割り当てられているチャンネルの音声を出力します。

12. EQ CURVE スイッチ

[EQ/ISO (HI, MID, LOW)] ノブで調整する機能 (アイソレーター (ISO) またはイコライザー (EQ)) を設定します。

❖ MASTER セクション

13. LEVEL ノブ

マスター音声の音量を調整します。

14. CLIP インジケータ

[MASTER 1]、[MASTER 2] 端子から過大音量が出力された場合に点灯します。




15. マスターレベルインジケータ

[MASTER 1]、[MASTER 2]、[DIGITAL MASTER OUT] 端子に出力するマスター音声の音量を表示します。

❖ フェーダーカーブセクション






16. CH FADER スイッチ

チャンネルフェーダーのカーブ特性を設定します。

- : 奥側で急峻に音が立ち上がります。
- : 奥側にスライドすると、徐々に音が立ち上がります。
- : 手前で急峻に音が立ち上がります。

17. CROSSFADER スイッチ

クロスフェーダーのカーブ特性を設定します。

- : クロスフェーダーを一方 ([A] または [B] 側) からスライドすると、もう一方に割り当てられている音が急峻に立ち上がります (例: [A] 側から離れるとすぐに [B] 側の音声出力されます)。
- :  と  の中間の設定です。
- : クロスフェーダーを一方 ([A] または [B] 側) からスライドすると、もう一方に割り当てられている音が徐々に立ち上がります (例: [A] 側から離れると [B] 側の音声徐々に大きくなり、[A] 側の音声は徐々に小さくなります)。

音声を出力する

チャンネル入力音量を調整する

- 1 入力切替えスイッチを回して、入力音声を選択する
- 2 [TRIM] ノブを回して、入力音声の音量を調整する
音声が入力されると、チャンネルレベルインジケーターが点灯します。

チャンネル出力音量を調整する

- 1 チャンネルフェーダーを動かして、出力音声の音量を調整する
- 2 [CROSSFADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切替えスイッチを切り替えて、出力音声をクロスフェーダーに割り当てる
 - [THRU] を選択した場合は、チャンネル出力音声の音量調節はここで完了です。
- 3 クロスフェーダーを動かして、出力音声を調節する

マスター音量を調節する

- 1 [LEVEL] ノブを回して、マスター音声の音量を調節する
マスター音声が出力されると、マスターレベルインジケーターが点灯します。

チャンネル音声の音質を調整する

- 1 [EQ CURVE] スイッチで調整する機能を設定します。
- 2 [EQ/ISO (HI, MID, LOW)] ノブを回して、各音域の音質を調整する

フェーダーカーブを設定する

チャンネルフェーダーカーブとクロスフェーダーカーブを設定します。

- 1 [CH FADER] スイッチで、チャンネルフェーダーカーブを選択する
- 2 [CROSSFADER] スイッチで、クロスフェーダーカーブを選択する

音声の左右バランスを調整する

以下の端子から出力する音声の左右バランスを調整します。

- [MASTER 1]
- [MASTER 2]
- [BOOTH]
- [REC OUT]
- [DIGITAL MASTER OUT]
- [USB]
- [PHONES A]
- [PHONES B]

- USB端子から出力される音声の左右バランスは、設定ユーティリティの[Mixer Audio Output]で[MIX(REC OUT with MIC)] または[MIX(REC OUT without MIC)] を選択しているときだけ調整できます (17 ページ)。

1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITYメニューが表示されます。

☞ 「設定」 (74 ページ)

2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [MIXER SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[MIXER SETTINGS] の設定項目が表示されます。

3 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [BALANCE] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[BALANCE] 画面が表示されます。

4 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して左右のバランスを調整する

- [L] の位置 (左端) に設定するとステレオ音声の左側音声だけが、[R] の位置 (右端) に設定するとステレオ音声の右側音声だけが出力されます。

5 [TAP] ボタンを押す

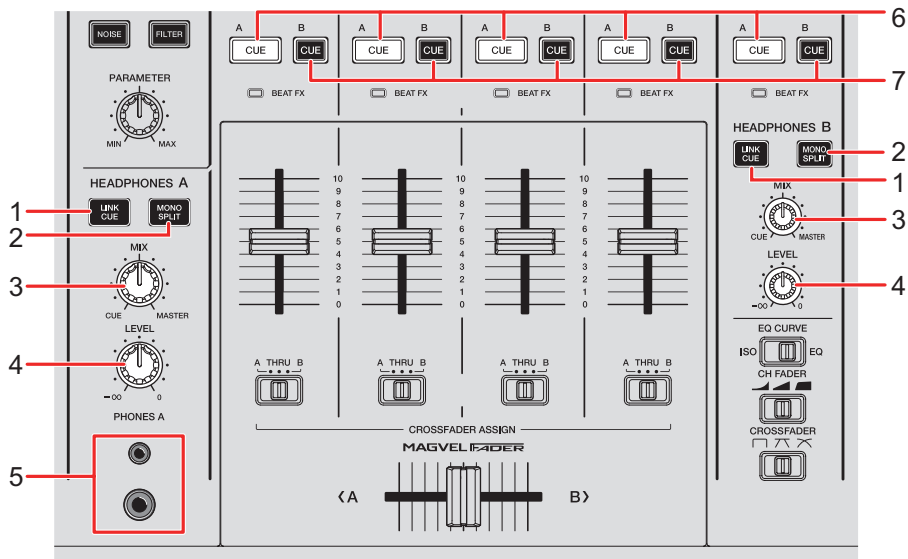
- 設定をキャンセルするには、[AUTO / TAP] ボタンを押します。

6 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを押す

[UTILITY] 画面が閉じます。

音声モニター

HEADPHONES (A / B) セクション



1. LINK CUE ボタン

LINK MONITORの音声を出力します。

2. MONO SPLIT ボタン

ヘッドホンへの出力音声 (MONO SPLIT / ステレオ) を選択します。ボタンが点灯しているときは、ヘッドホンの左チャンネルから [CUE A] / [CUE B] ボタンが押されているチャンネルの音声を、右チャンネルから [MASTER] チャンネルの音声を出力します。ボタンが消灯しているときは、[CUE A] / [CUE B] ボタンが押されているチャンネルの音声をステレオ出力します。

3. MIX ノブ

[CUE] ボタンが押されているチャンネルとマスター音声の音量バランスを調整します。

4. LEVEL ノブ

ヘッドホンから出力する音量を調節します。

5. PHONES A 端子

ヘッドホンを接続します。

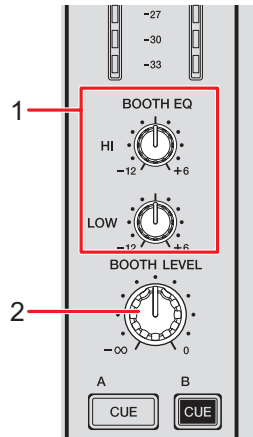
- [HEADPHONES B] でモニターするときには、本体フロントの [PHONES B] 端子に接続してください (23 ページ)。

6. **CUE A** ボタン
[PHONES A] 端子に音声を出力します。
7. **CUE B** ボタン
[PHONES B] 端子に音声を出力します。

ヘッドホンで音声をモニターする

- 1 [PHONES A] または [PHONES B] 端子にヘッドホンを接続する
 - 2 [CUE] ボタン ([CUE A]、[CUE B]、または [LINK CUE]) を押して、モニターする音声を選択する
 - 3 [HEADPHONES A] または [HEADPHONES B] の [MONO SPLIT] ボタンを押して、出力音声 (MONO SPLIT / ステレオ) を選択する
 - 4 [MIX] ノブを回して、[CUE] ボタンが押されているチャンネルとマスター音声の音量バランスを調整する
 - 5 [LEVEL] ノブを回して、[CUE] ボタンが押されているチャンネルの音量を調節する
- もう一度 [CUE] ボタンを押すと、音声モニターがオフになります。

ブースセクション



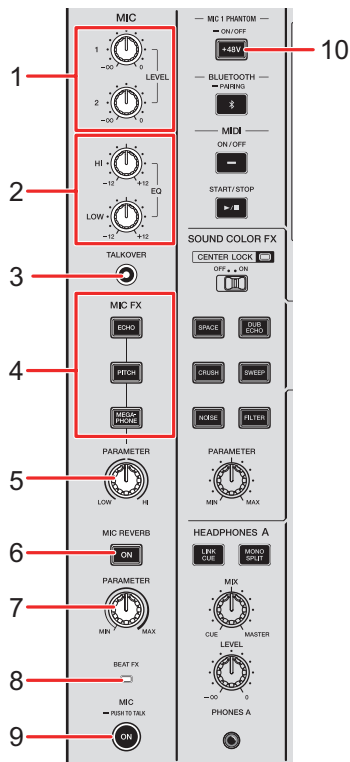
1. **BOOTH EQ (HI, LOW) ノブ**
各音域の音質を調整します。
各ノブで調整できる音域は以下のとおりです。
 - [HI] : -12 dB ~ +6 dB
 - [LOW] : -12 dB ~ +6 dB
2. **BOOTH LEVEL ノブ**
ブースモニター音声の音量を調整します。

ブースモニターを使う

- 1 [BOOTH] 端子にブースモニター用の機器を接続する
 - ☞ 「出力端子に接続する」 (22 ページ)
- 2 [BOOTH LEVEL] ノブを回して、出力音声の音量を調節する
- 3 [BOOTH EQ (HI, LOW)] ノブを回して、各音域の音質を調整する

マイク

MIC セクション



1. LEVEL (1, 2) ノブ

[MIC 1] / [MIC 2] 端子から入力する音量を調整します。

2. EQ (HI, LOW) ノブ

[MIC 1] / [MIC 2] 端子から入力する音声の音質を調整します。

各ノブで調整できる音域は以下のとおりです。

- [HI] : -12 dB ~ +12 dB
- [LOW] : -12 dB ~ +12 dB

3. TALKOVER ボタン

TALKOVER モードのオン/オフを切り替えます。オンのときにボタンが点灯します。

- マイクに音声が入力されると、マイクチャンネル以外の音量が減衰します。
- TALKOVER モードと音声減衰レベルは、[MY SETTINGS] の [TALKOVER] で変更できます (80 ページ)。

4. MIC FX ボタン

マイクエフェクトを選択します。選択されているエフェクトのボタンが点灯します。

- [ECHO]：ディレイ音を減衰させながら数回出力して、反響効果を加えます。
- [PITCH]：マイク音声の音程を変化させます。
- [MEGAPHONE]：メガホンで話しているような音声に変化させます。

5. MIC FX PARAMETER ノブ

[MIC FX] ボタンで選択されているマイクエフェクトの量的パラメーターを調整します。

6. MIC REVERB ボタン

マイクリバーブのオン／オフを切り替えます。オンのときにボタンが点灯します。

7. MIC REVERB PARAMETER ノブ

マイク音声に加えるリバーブの量的パラメーターを調整します。

8. BEAT FX インジケーター

[BEAT FX] セクションの [CH SELECT] ボタンで [MIC] が選択されているときに点灯します。マイク音声に BEAT FX がかかっているときに点滅します。

9. MIC ボタン

マイク音声出力のオン／オフを切り替えます。オンのときにボタンが点灯します。

- 長押しすると、ボタンを押している間マイクがオンになり、離すとオフになります（プッシュトゥートーク機能）。

10. MIC 1 PHANTOM ON/OFF ボタン

長押ししてファンタム電源のオン／オフを切り替えます。オンのときにボタンが点灯し、[MIC 1] 端子の XLR プラグに DC+48V のファンタム電源が供給されます。

- コンデンサーマイクを使用するときはオンにしてください。
- ボタンが点灯しないときは、ファンタム電源機能にロックがかかっています。UTILITY 設定の [MIC PHANTOM LOCK] でロックを解除できます（78 ページ）。

注意

[MIC 1] 端子にファンタム電源の供給が必要なコンデンサーマイクを接続するとき以外は、ファンタム電源を絶対にオンにしないでください。また、[MIC 1] 端子の抜き差しは、必ずファンタム電源がオフの状態で行ってください。誤った使い方をすると、機器が故障する恐れがあります。

ファンタム電源のオン／オフは、[MIC] ボタンがオフ、もしくは MIC の [LEVEL 1] ノブを最小に設定した状態で行ってください。誤った使い方をすると、モニター機器から大きなノイズが出て機器の故障や聴覚障害の原因となる恐れがあります。

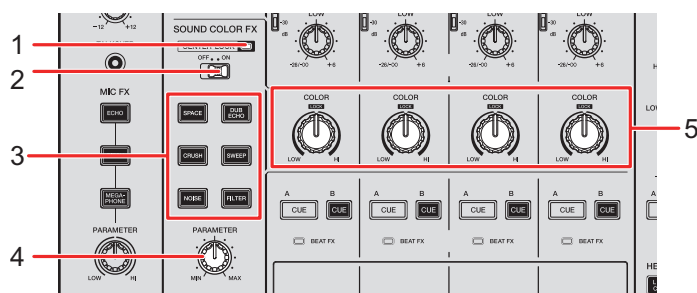
マイクを使う

- 1 [MIC 1] または [MIC 2] 端子にマイクを接続する
 - ☞ 「入力端子に接続する」(21 ページ)
 - 2 [TALKOVER] ボタンを押して、マイク TALKOVER のオン／オフを設定する
 - 3 [MIC] ボタンを押して、マイクをオンにする
 - 4 [LEVEL (1, 2)] ノブを回して、マイク音声の音量を調整する
 - 右に回しすぎると、大音量で出力されます。ご注意ください。
 - 5 [EQ (HI, LOW)] ノブを回して、各音域の音質を調整する
 - 6 マイクに音声を入力する
 - 7 必要に応じて、マイク音声にかけるエフェクトの [MIC FX] ボタンを押す
 - 8 [MIC FX PARAMETER] ノブを回して、マイクエフェクトの量的パラメーターを調整する
 - 9 必要に応じて、[MIC REVERB] ボタンを押して、マイク音声にリバーブをかける
 - 10 [MIC REVERB PARAMETER] ノブを回して、リバーブの量的パラメーターを調整する
- ☞ マイク音声に BEAT FX を加える場合：「BEAT FX セクション」(48 ページ)

SOUND COLOR FX

FILTERやその他のエフェクトを加えます。

SOUND COLOR FX セクション



- 1. CENTER LOCK インジケータ**
[CENTER LOCK] スイッチが [ON] に設定されているときに点灯します。
- 2. CENTER LOCK スイッチ**
[ON] に設定すると、[COLOR] ノブを素早く回したときに、中央の位置でロックがかかります。ノブから手を放すとロックが解除され、ノブを回すことができます。
- 3. SOUND COLOR FX ボタン**
SOUND COLOR FX を選択します。選択しているボタンが点滅します。
- 4. PARAMETER ノブ**
エフェクトの量的パラメーターを調整します。
- 5. COLOR ノブ**
エフェクトを調整します。

SOUND COLOR FX を使う

🔊 「SOUND COLOR FXの種類と設定方法」(40ページ)

1 使用するエフェクトの [SOUND COLOR FX] ボタンを押す

使用中のエフェクトのボタンが点滅します。

- CH 1～CH 4に選択したエフェクトが加わります。
- すでにエフェクトが選択されているときは、後から押したボタンのエフェクトに切り替わります。

2 [COLOR] ノブを回して、エフェクトを調整する

ノブを回したチャンネルの音声のエフェクトを調整します。

3 [PARAMETER] ノブを回して、エフェクトの量的パラメーターを調整する

- もう一度使用中のエフェクトの [SOUND COLOR FX] ボタンを押すと、エフェクトがオフになります。

SOUND COLOR FXの種類と設定方法

ノブの操作で下記の内容を設定できます。

エフェクト／操作	説明
SPACE	残響効果を加えます。
• COLOR:	左に回す：中音域と低音域に残響効果を加えます。 右に回す：中音域と高音域に残響効果を加えます。
• PARAMETER:	フィードバック
DUB ECHO	ディレイ音を減衰させながら数回出力して、反響効果を加えます。
• COLOR:	左に回す：中音域に反響効果を加えます。 右に回す：高音域に反響効果を加えます。
• PARAMETER:	フィードバック
SWEEP	ノッチフィルターまたはバンドパスフィルターの効果を加えます。
• COLOR:	左に回す：ノッチフィルターの帯域幅が徐々に広がります。 右に回す：バンドパスフィルターの帯域幅が徐々に狭くなります。
• PARAMETER:	フィルターの中心周波数
NOISE	フィルターに通したホワイトノイズを、チャンネルの音声とミックスして出力します。
• COLOR:	左に回す：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数を下げます。 右に回す：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数を上げます。
• PARAMETER:	ノイズの音量

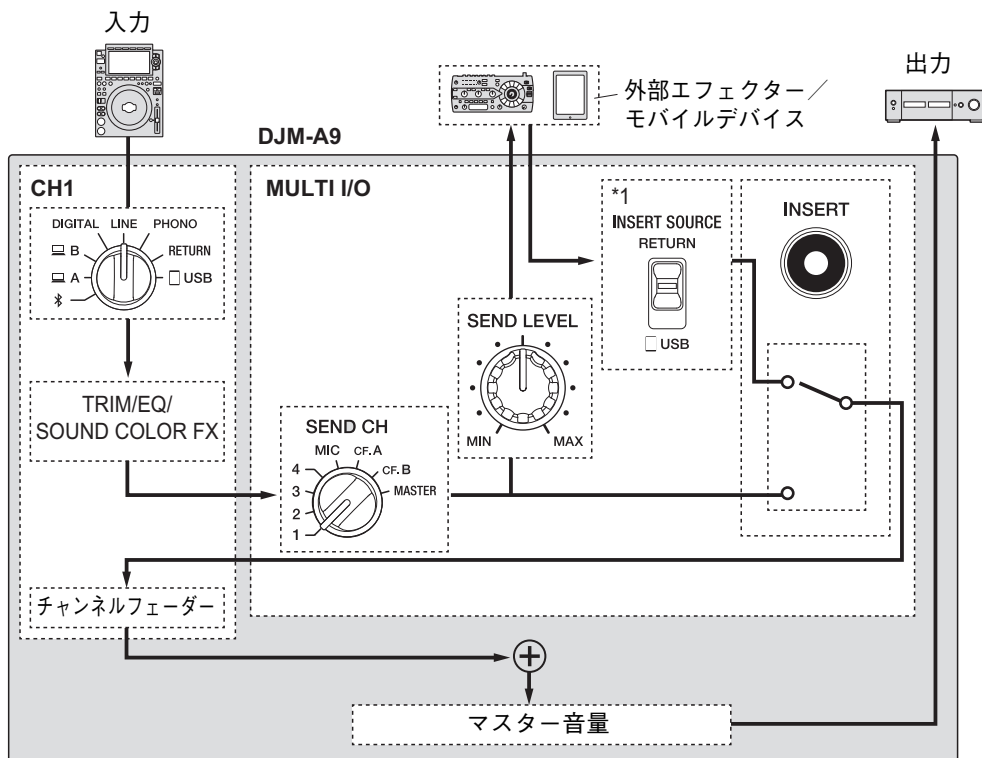
エフェクト／操作	説明
<ul style="list-style-type: none">• EQ/ISO (HI, MID, LOW) :	ノイズの音質
CRUSH	原音をクラッシュしたような音に変化させて出力します。
<ul style="list-style-type: none">• COLOR:	左に回す：音声をクラッシュしたような効果を加えます。 右に回す：音声をクラッシュしてからハイパスフィルターの効果を加えます。
<ul style="list-style-type: none">• PARAMETER:	クラッシュ効果
FILTER	フィルターを通した音声を出力します。
<ul style="list-style-type: none">• COLOR:	左に回す：ローパスフィルターのカットオフ周波数を下げます。 右に回す：ハイパスフィルターのカットオフ周波数を上げます。
<ul style="list-style-type: none">• PARAMETER:	レゾナンス

MULTI I/O

外部エフェクターまたはモバイルデバイス（エフェクトアプリケーション）のエフェクト音声を各チャンネルやマスターの音声に入力します。

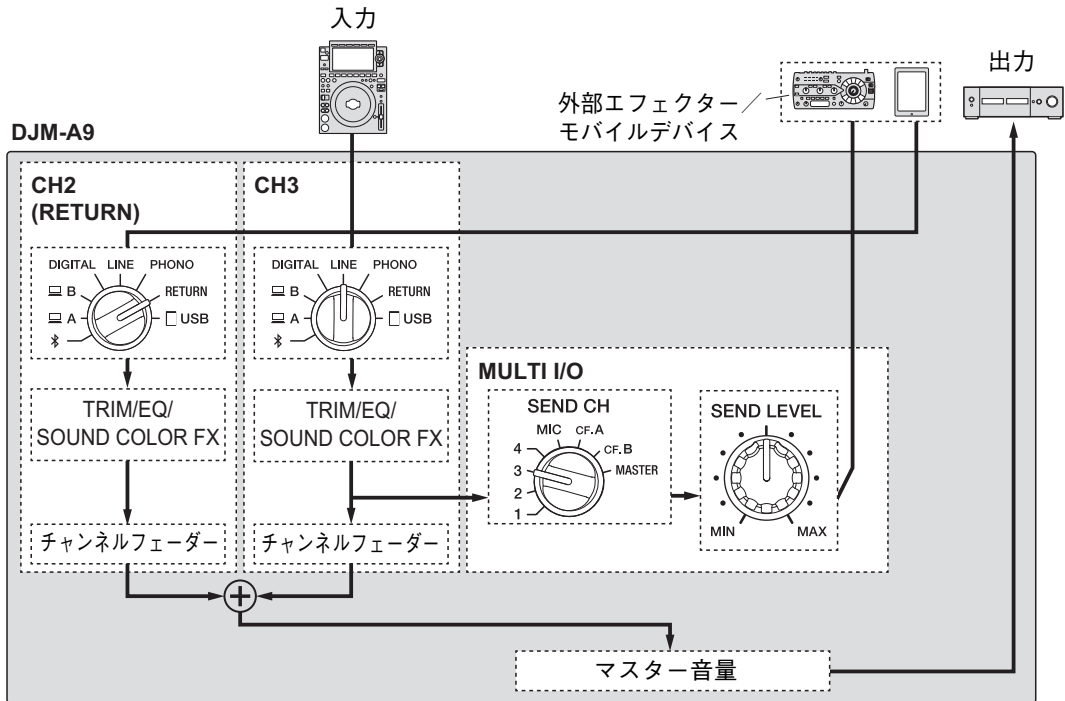
「INSERT方式」と「RETURN方式」に対応しています。

- **INSERT方式**：原音とエフェクト音を入れ替えます。



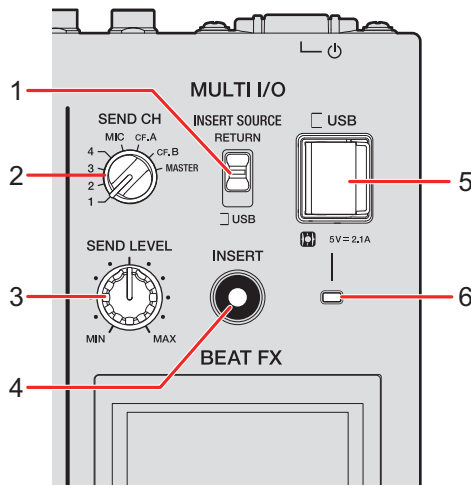
*1 マスター音声にミックスする音声を選択します。[RETURN] を選択すると外部エフェクターから返ってきた音声を、[USB] を選択するとモバイルデバイスから返ってきた音声を出力します。

- **RETURN 方式**：原音とは別のチャンネルにエフェクト音を入力します。原音とエフェクト音を自在にミックスできます。



- ➡ 接続方法：「MULTI I/Oを使う」(24 ページ)

MULTI I/O セクション



1. INSERT SOURCE 切替えスイッチ

INSERT方式を使用するとき、入力する音声のソースを選択します。

- [RETURN]：[RETURN] 端子から音声を入力します。
- [USB]：モバイルデバイス接続用端子から音声を入力します。

2. SEND CH 切替えスイッチ

MULTI I/Oのエフェクト音を加えるチャンネルを選択します。

3. SEND LEVEL ノブ

MULTI I/Oのセンドレベルを調整します。

4. INSERT ボタン

INSERT方式のオン／オフを切り替えます。オンのときにボタンが点滅します。

5. モバイルデバイス接続用端子 (USB 端子)

モバイルデバイスを接続します。

6. USB 接続インジケータ

対応モバイルデバイスが接続されているときに点灯します。非対応モバイルデバイスが接続されているときは点滅します。

MULTI I/O を使う

1 使用するエフェクターの方式に合わせて、[INSERT SOURCE] 切替えスイッチまたは各チャンネルの入力切替えスイッチを設定する

- INSERT方式を使用する場合：
 - － 外部エフェクターを使用するとき：[INSERT SOURCE] 切替えスイッチを [RETURN] に設定してください。
 - － モバイルデバイスを使用するとき：[INSERT SOURCE] 切替えスイッチを [USB] に設定してください。
- RETURN方式を使用する場合：
 - － 外部エフェクターを使用するとき：各チャンネルの入力切替えスイッチを [RETURN] に設定してください。
 - － モバイルデバイスを使用するとき：各チャンネルの入力切替えスイッチを [USB] に設定してください。

☞ 入力切替えスイッチ：「チャンネルセクション／マスターセクション／フェーダーカーブセクション」(26 ページ)

2 [SEND CH] 切替えスイッチを回して、MULTI I/Oのエフェクトを加えるチャンネルを選択する

3 INSERT方式を使用するときは、[INSERT] ボタンを押してINSERT方式をオンにする

4 [SEND LEVEL] ノブを回して、MULTI I/Oのセンドレベルを調節する

- もう一度 [INSERT] ボタンを押すと、INSERT方式がオフになります。
- 以下の場合は、MULTI I/Oは強制的にオフになります。
 - [SEND CH] 切替えスイッチで [1] ～ [4] のいずれかのチャンネルを選択し、選択しているチャンネルの入力切替えスイッチで [RETURN] を選択しているとき

- **[SEND CH]** 切替えスイッチで **[CF.A]** (CROSSFADER A) または **[CF.B]** (CROSSFADER B) を選択し、選択しているチャンネルの入力切替えスイッチで **[RETURN]** を選択、**[CROSSFADER ASSIGN (A, THRU, B)]** 切替えスイッチと **[SEND CH]** 切替えスイッチが同じ選択のとき
- **[SEND CH]** 切替えスイッチで **[MASTER]** を選択し、いずれかのチャンネルの入力切替えスイッチで **[RETURN]** を選択しているとき

BEAT FX

再生中の楽曲のテンポ（BPM = Beats Per Minute）に合わせたさまざまなエフェクトを加えます。

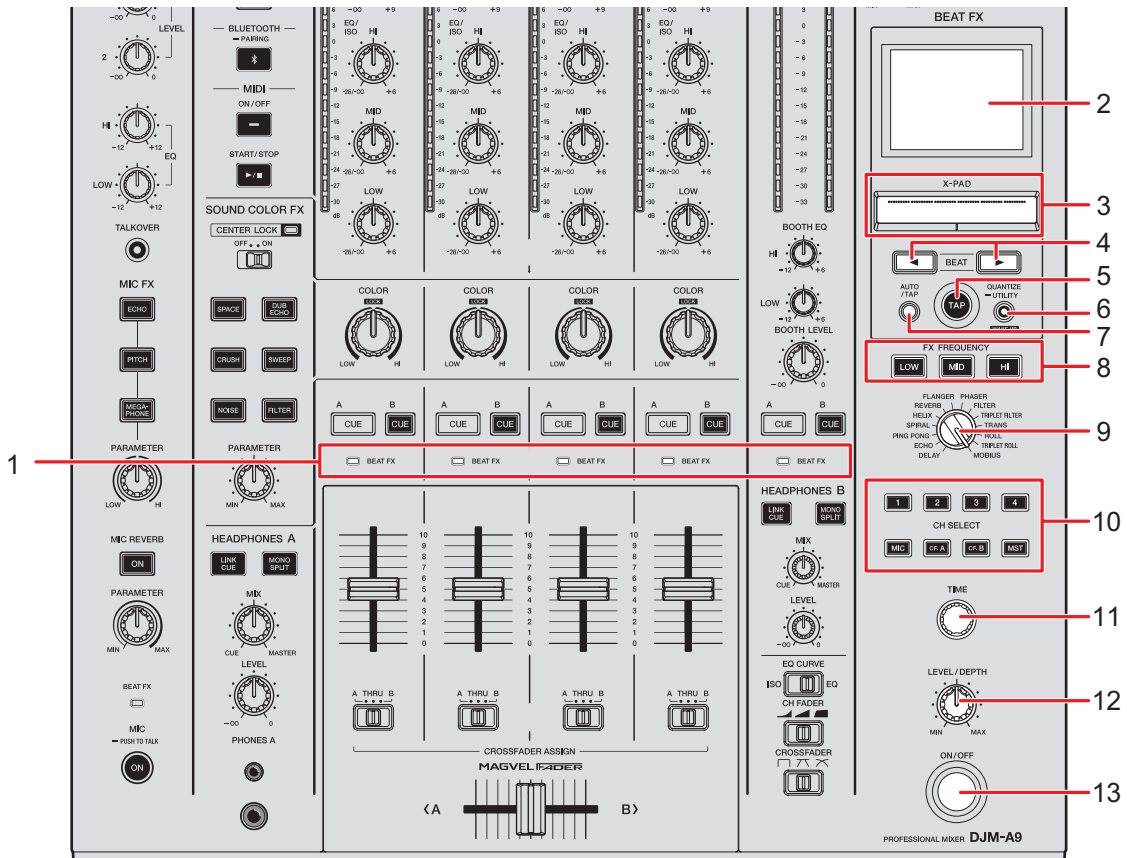
PRO DJ LINKで本機のクオンタイズ機能を使用すると、[BEAT FX] セクションの [ON/OFF] ボタンやX-PADをラフに操作しても、rekordboxで解析された楽曲のGRID情報をもとに、再生中の楽曲のテンポとずれることなくエフェクトを加えることができます。

- PRO DJ LINKでクオンタイズ機能を使用するには、本機とPRO DJ LINK対応のPioneer DJのマルチプレーヤーを接続してください。

また、あらかじめrekordboxで楽曲を解析してください。rekordboxで楽曲ファイルを解析する方法については、rekordboxの操作説明書を参照してください（5 ページ）。

➡ 「PRO DJ LINKについて」（6 ページ）

BEAT FX セクション



1. BEAT FX インジケーター

[CH SELECT] ボタンで選択されているチャンネルのインジケーターが点灯します。BEAT FXがかかっているときに点滅します。

2. 本体表示部 (50 ページ)

3. X-PAD

タッチすると、エフェクトがオンになります。指を離すとエフェクトがオフになります。タッチしてなぞると、エフェクトの時間的／量的パラメーターを調節できます。

4. BEAT ◀ / ▶ ボタン

BEAT FXを同期させる拍の倍率を設定します。

5. TAP ボタン

ボタンを指でたたいて、手動でBPMを入力します。

6. QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP) ボタン

ボタンを押して、クオンタイズ機能のオン／オフを切り替えます。オンのときにボタンが点灯します。

- スタンバイ状態のときに押すと、スタンバイ状態を解除します。
- 長押しすると、UTILITY設定画面を表示します（75 ページ）。

7. AUTO / TAP ボタン

BPMの測定方法（AUTO / TAP）を選択します。選択した測定方式が本体表示部に表示されます。

- － AUTO（自動）モード：入力音声のBPMを自動測定します（測定範囲は70～180）。
- － TAP（手動入力）モード：BPMを手動で設定します（52 ページ）。
- 本機の電源をオンにしたときは、自動的にAUTOモードに設定されます。

8. FX FREQUENCY (LOW, MID, HI) ボタン

BEAT FXを加える音域（[LOW] / [MID] / [HI]）を選択します。選択されているボタンが点灯します。

9. BEAT FX切替えスイッチ

BEAT FXを選択します。

10. CH SELECT ボタン

BEAT FXを加えるチャンネルを選択します。選択したチャンネルのボタンが点灯します。

11. TIME ノブ（53 ページ）

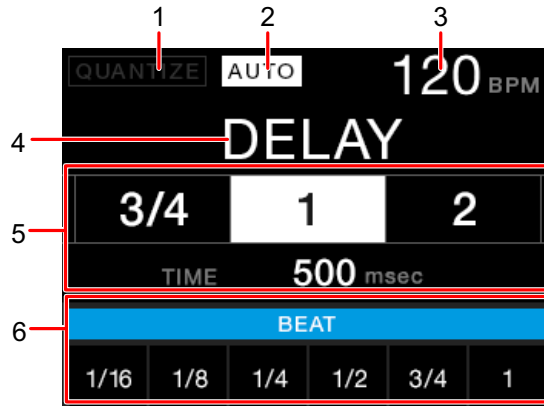
12. LEVEL/DEPTH ノブ（53 ページ）

- 左に回し切ると、原音が出力されます。

13. ON/OFF ボタン

BEAT FXのオン／オフを切り替えます。オンのときにボタンが点滅します。

本体表示部



1. QUANTIZE

クオンタイズ機能の状態を以下のように示します。

- － 赤色表示：オン
- － グレー表示：オン（GRID 情報を受信できない）
- － 表示なし：オフ

- マルチプレーヤーの再生状態（オフエア、スクラッチ中、リバース再生中など）によっては、GRID 情報を受信できないことがあります。

2. AUTO / TAP

BPM 測定モードが自動モードのときは [AUTO] が、手動入力モードのときは [TAP] が表示されます。

- 自動モードで BPM を測定できないときは、BPM 値の表示が点滅します。その場合は、[AUTO / TAP] ボタンを押して手動入力モード（[TAP] を表示）を選択してください。

3. BPM 表示

4. エフェクト表示

選択されているエフェクト名を表示します。

5. ビート / パラメーター表示

選択されている拍数が点灯し、拍数に相当する時間が表示されます。

- エフェクトによっては、[BEAT ◀ / ▶] ボタンを押したときにパラメーターを表示します。パラメーターの範囲外が指定されたときは点滅します。

6. X-PAD ステータス表示

X-PAD を操作しているときに、操作位置を表示します。

BEAT FX を使う

🕒 「BEAT FXの種類と設定方法」(53 ページ)

- 1 [AUTO / TAP] または [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを押して、BPM測定モードを設定する
- 2 BEAT FX切替えスイッチを回して、エフェクトを選択する
選択したBEAT FXの画面が表示されます。
- 3 エフェクトを加えるチャンネルの [CH SELECT] ボタンを押す
- 4 [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して、エフェクト音を同期させる拍の倍率を設定する
- 5 [FX FREQUENCY (LOW, MID, HI)] ボタンを押して、エフェクトを加える音域を選択する
- 6 [TIME] ノブや [LEVEL/DEPTH] ノブを回して、エフェクトのパラメーターを調整する
- 7 [ON/OFF] ボタンを押して (または [X-PAD] をタッチして)、BEAT FXをオンにする

選択されている [CH SELECT] ボタンのチャンネルの音声にエフェクトが加えられます。

- もう一度 [ON/OFF] ボタンを押すと、BEAT FXがオフになります。

BPMを手動で設定する

1 再生中の音声の拍に合わせて、[TAP] ボタンを2回以上指でたたく

[TAP] ボタンを指でたたいた間隔の平均値がBPMに設定されます。

- [TAP] ボタンを使ってBPMを設定すると、拍の倍率は [1/1] に設定され、1 拍の時間がエフェクトタイムに設定されます。
- [TAP] ボタンを押しながら [TIME] ノブを回して、BPMを手動で設定することもできます。
- [TAP] ボタンと [AUTO / TAP] ボタンを押しながら [TIME] ノブを回す、または [TAP] ボタンを押しながら [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押すと、BPMを0.1単位で設定できます。

BEAT FXの種類と設定方法

ボタンやノブなどの操作で、BEAT FXの下記の内容を設定できます。

BEAT FX / 操作	説明
DELAY ¹ ²	拍に合わせて、ディレイ音を1回出力します。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対してのディレイタイム（倍率）：1/16～16拍
• TIME:	ディレイタイム：1～4000（ms）
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランス
• X-PAD:	ディレイタイム
ECHO ¹ ²	拍に合わせて、ディレイ音を減衰させながら数回出力します。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対してのディレイタイム（倍率）：1/16～16拍
• TIME:	ディレイタイム：1～4000（ms）
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランス
• X-PAD:	ディレイタイム
PING PONG ¹ ²	拍に合わせて、左右でディレイタイムが異なるディレイ音を減衰させながら数回出力します。ステレオ感の効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対してのディレイタイム（倍率）：1/16～16拍
• TIME:	ディレイタイム：10～4000（ms）
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランス
• X-PAD:	ディレイタイム

BEAT FX / 操作	説明
SPIRAL 1 2	入力音に残響効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対してのディレイタイム (倍率) : 1/16~16拍
• TIME:	ディレイタイム : 10~4000 (ms)
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランスとフィードバック
• X-PAD:	ディレイタイム
HELIX	入力音を記録し、記録した音を設定した時間的パラメーターに合わせて繰り返し出力します。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対してのエフェクト時間 (倍率) : 1/16~16拍
• TIME:	エフェクト時間 : 10~4000 (ms)
• LEVEL/DEPTH:	音を重ねる割合 <ul style="list-style-type: none"> • [LEVEL/DEPTH] ノブを左に回し切ってから右に回すと、減衰率も変化させることができます。右に回し切ると、出力音が固定されます。
• X-PAD:	エフェクト時間
REVERB 1 2	入力音に残響効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	残響エフェクトの度合い : 1~100%
• TIME:	残響エフェクトの度合い : 1~100%
• LEVEL/DEPTH:	原音とエフェクト音のバランス
• X-PAD:	フィルターのカットオフ周波数

BEAT FX / 操作	説明
FLANGER	拍に合わせて、周期的なフランジャー効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対するエフェクト移動周期（倍率）：1/16~64拍
• TIME:	エフェクト移動周期：10~32000（ms）
• LEVEL/DEPTH:	エフェクトの度合い
• X-PAD:	エフェクト移動周期
PHASER	拍に合わせて、周期的なフェイザー効果を加えます。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対するエフェクト移動周期（倍率）：1/16~64拍
• TIME:	エフェクト移動周期：10~32000（ms）
• LEVEL/DEPTH:	エフェクトの度合い
• X-PAD:	エフェクト移動周期
FILTER	拍に合わせて、周期的にフィルターのカットオフ周波数が変化します。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対するエフェクト移動周期（倍率）：1/16~64拍
• TIME:	エフェクト移動周期：10~32000（ms）
• LEVEL/DEPTH:	エフェクトの度合い
• X-PAD:	エフェクト移動周期
TRIPLET FILTER	拍に合わせ、3拍を基準として周期的にフィルターのカットオフ周波数が変化します。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対するエフェクト移動周期（倍率）：1/12~12/3拍
• TIME:	エフェクト移動周期：10~32000（ms）
• LEVEL/DEPTH:	エフェクトの度合い

BEAT FX / 操作	説明
<ul style="list-style-type: none"> • X-PAD: 	エフェクト移動周期
TRANS	拍に合わせて、音声を周期的にカットします。
<ul style="list-style-type: none"> • BEAT ◀ / ▶: • TIME: • LEVEL/DEPTH: • X-PAD: 	<p>BPMの1拍に対してのカットする周期（倍率）：1/16~16拍</p> <p>エフェクト時間：10~16000（ms）</p> <p>原音とエフェクト音のバランスとデューティ</p> <p>カットする周期</p>
ROLL	[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。
<ul style="list-style-type: none"> • BEAT ◀ / ▶: • TIME: • LEVEL/DEPTH: • X-PAD: 	<p>BPMの1拍に対してのエフェクト時間（倍率）：1/16~16拍</p> <p>エフェクト時間：10~4000（ms）</p> <p>原音とエフェクト音のバランス</p> <p>エフェクト時間</p>
TRIPLET ROLL	[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を設定した拍の3拍を基本とした倍率に合わせて繰り返し出力します。
<ul style="list-style-type: none"> • BEAT ◀ / ▶: • TIME: • LEVEL/DEPTH: • X-PAD: 	<p>BPMの1拍に対してのエフェクト周期（倍率）：1/12~12/3拍</p> <p>エフェクト時間：10~4000（ms）</p> <p>原音とエフェクト音のバランス</p> <p>エフェクト時間</p>

BEAT FX / 操作	説明
MOBIUS	拍に合わせて、発音したオシレーターの周波数が上昇または下降し続けるように変化します。
• BEAT ◀ / ▶:	BPMの1拍に対するエフェクト移動周期（倍率）：1/16～64拍 / -64～-1/16拍
• TIME:	エフェクト移動周期：10～32000 / -32000～-10（ms）
• LEVEL/DEPTH:	オシレーターの音量
• X-PAD:	オシレーターの波形

- ① [CH SELECT] ボタンの [1] ～ [4] がオンのときは、そのチャンネルの [CUE A] または [CUE B] ボタンを押してもエフェクト音はモニターできません。
- ② チャンネルフェーダーを [0] の位置に合わせて入力音を切ると、エフェクト音が残ります。

USB / MIDI

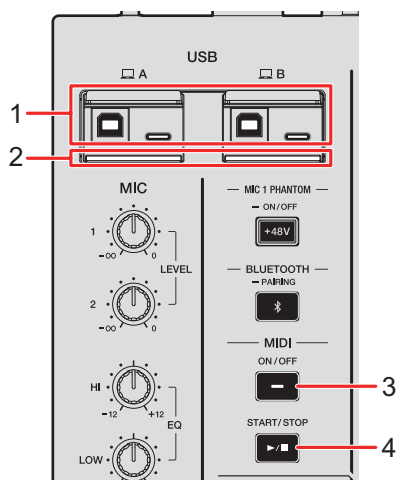
MIDI 対応のソフトウェアをインストールした PC / Mac やモバイルデバイスを USB ケーブルを使って接続すると、本機から MIDI 対応ソフトウェアを操作できます。

- 本機の MIDI メッセージについては、下記のサイトを参照してください。

pioneerdj.com/support/

- MIDI 出力する場合は、[MY SETTINGS] 設定の [MIDI] で MIDI チャンネルを設定してください。HID 形式で出力を行うときは設定の必要はありません。

USB / MIDI セクション



1. □ A, B (USB) 端子 (23 ページ)

- [□ A] と [□ B] のそれぞれの Type-B と Type-C の端子に接続したデバイスは、同時に使用することはできません。先に接続した端子が有効となり、もう一方の端子は無効となります (USB インジケータが消灯します)。

2. USB 接続インジケータ

PC / Mac を接続すると点滅します。PC / Mac に専用ソフトウェアがインストールされていないときはゆっくりと点滅します。

- 本機に PC / Mac の音声を入力 / 出力する場合は、お使いの PC / Mac にあらかじめ専用ソフトウェアをインストールしてください (13 ページ)。

3. MIDI ON/OFF ボタン

MIDIのオン／オフを切り替えます。オンのときにボタンが点灯します。


4. MIDI START/STOP ボタン

MIDIスタート／ストップのメッセージを送信します。スタートメッセージ送信後はボタンが点灯し、ストップメッセージ送信後は消灯します。

MIDI対応ソフトウェアを操作する

- お使いのPC / Macやモバイルデバイスに、あらかじめMIDI対応ソフトウェアをインストールし、オーディオとMIDIの設定を行ってください。

1 本機とPC / Macまたはモバイルデバイスを接続する

- PC / Macは [ A, B] (USB) 端子に、モバイルデバイスは [MULTI I/O] セクションのモバイルデバイス接続用端子に接続します (23 ページ)。

2 MIDI対応ソフトウェアを起動する

- モバイルデバイスを使用する場合は、操作はここで完了です。

3 [MIDI ON/OFF] ボタンを押して、MIDIをオンにする

MIDIメッセージの送信を開始します。

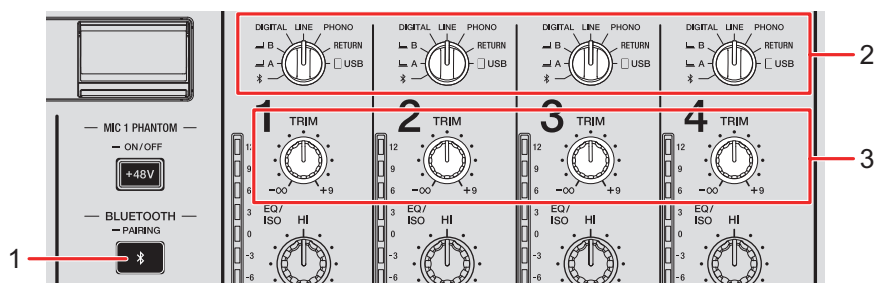
- もう一度 [MIDI ON/OFF] ボタンを押すと、MIDIがオフになり、MIDIメッセージの送信を停止します。
- MIDIタイミングクロック (BPM 情報) は、[MIDI ON/OFF] ボタンのオン／オフに関係なく送信されます。
- [MIDI START/STOP] ボタンを押すと、[MIDI ON/OFF] ボタンのオン／オフに関係なく、MIDIスタート／ストップのメッセージを交互に送信します。

BLUETOOTH

PC / Macやモバイルデバイスの音声をBluetoothで本機に入力することができます。

- Bluetooth接続を利用する際は、無線アンテナを立ててください（63 ページ）。

BLUETOOTH セクション



1. BLUETOOTH PAIRING ボタン

Bluetooth機器とのペアリングを実行します。

ボタンは、Bluetooth接続の状態を以下のように示します。

- － 点滅：ペアリング操作（一定間隔で点滅）、接続待ち状態（2回ずつ点滅）
- － 点灯：Bluetooth機器と接続されている状態

2. 入力切替えスイッチ（26 ページ）

3. TRIM ノブ（26 ページ）

Bluetooth 機器と接続する

1 [BLUETOOTH PAIRING] ボタンを長押しする（約2秒）

本機がペアリング状態になります。

- ペアリング状態中は、Bluetooth インジケーターが点滅します（約120秒間）。

2 Bluetooth 機器側でペアリング操作を行う

接続が完了すると、Bluetooth インジケーターが点滅から点灯に変わります。

- 本機がペアリング状態の間（約120秒間）に、Bluetooth 機器側でペアリング操作を行ってください。120秒以内にペアリングできなかった場合、Bluetooth インジケーターは消灯します。
- Bluetooth 機器側のペアリング操作については、お使いの Bluetooth 機器の取扱説明書を参照してください。
- 本機に登録済みの Bluetooth 機器は、本機の [BLUETOOTH PAIRING] ボタンを短く押すと接続できます。
- 本機に登録できる Bluetooth 機器は1台です。登録済みの機器とは別の機器をペアリングすると、登録情報は上書きされます。もう一度登録するには、ペアリングの操作を行ってください。

Bluetooth 機器を使う

1 Bluetooth 機器を接続する

2 Bluetooth の音声を入力するチャンネルの入力切替えスイッチを [※] に合わせる

3 Bluetooth 機器から音声を入力する

4 Bluetooth の音声を入力しているチャンネルの [TRIM] ノブを回して、Bluetooth 機器の音量を調整する

無線LAN (Wi-Fi)

無線LAN (Wi-Fi) を使用すると、Stagehandを使ってPioneer DJのマルチプレーヤーやミキサーのステータスを確認したり、遠隔操作することができます。

- Stagehandは、PRO DJ LINKで利用することができます (7 ページ)。
- 詳しくは、Stagehandの取扱説明書とrekordboxの操作説明書を参照してください。

pioneerdj.com/ja-jp/product/software/rekordbox.com/manual

- Bluetooth接続を利用する際は、無線アンテナを立ててください。

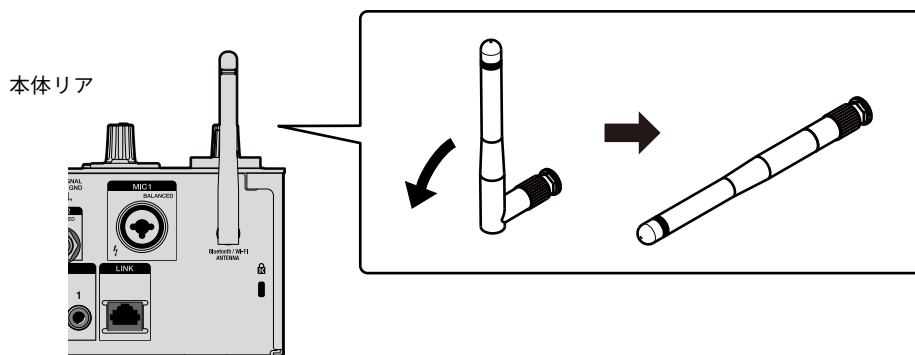
無線アンテナの取り付け／取り外し

無線アンテナは取り付け／取り外しができます。

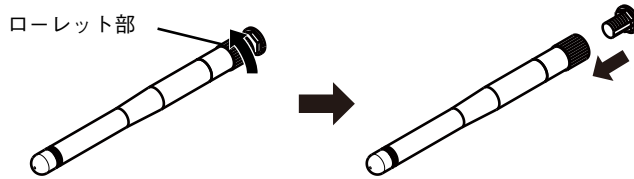
- 工場出荷時は、無線アンテナは取り付けられています。
- 付属の無線アンテナ以外のアンテナを接続しないでください。
- 本機を梱包や輸送するときは、破損防止のため無線アンテナを取り外してください。
- 無線アンテナに無理な力を加えないでください。破損する恐れがあります。
- 無線アンテナは1方向のみに曲がりません。可動部分を確認して正しい方向に曲げてください。

❖ 無線アンテナを取り外す

1 アンテナを倒して水平にする

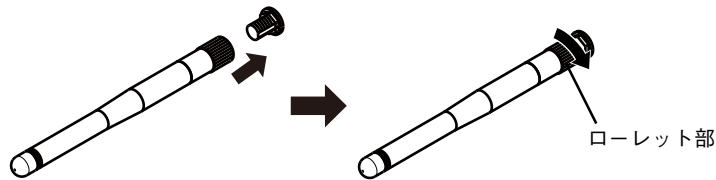


2 ローレット部を回して、アンテナを本機から外す

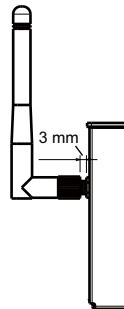


❖ 無線アンテナを取り付ける

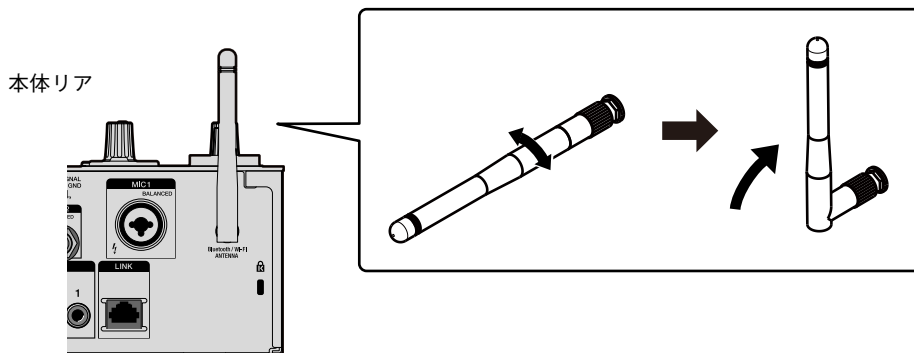
1 本体リア部のアンテナ端子に無線アンテナを水平に合わせ、ローレット部を回して取り付ける



- ローレット部を回して、しっかりと締めてください（正しく締めると根元から3 mm程度の隙間ができます）。締めすぎないように注意してください。



2 無線アンテナを回して、受信状態が良い向きに合わせる



無線 LAN (Wi-Fi) を設定する

- 1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITYメニューが表示されます。

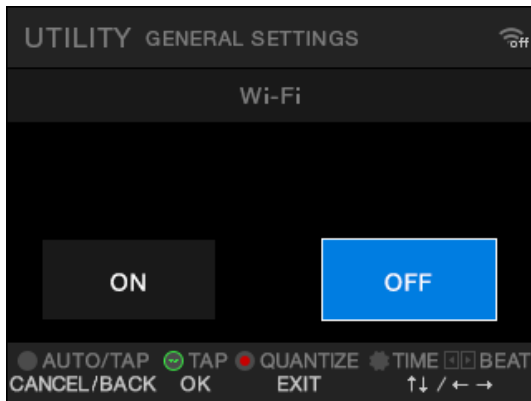
- 2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [GENERAL SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[GENERAL SETTINGS] の設定項目が表示されます。

- 3 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [Wi-Fi] を選択し、[TAP] ボタンを押す

- 4 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [Wi-Fi] を選択し、[TAP] ボタンを押す

Wi-Fi ON/OFF画面が表示されます。



- 5 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [ON] または [OFF] を選択し、[TAP] ボタンを押す

- [ON] に設定したときに、接続したことのあるアクセスポイントがある場合は自動的に接続します。工場出荷時は [OFF] に設定されています。
- UTILITY画面に無線 LAN (Wi-Fi) の電波強度 (アイコン) が表示されます (74 ページ)。

無線ネットワークに接続する

以下のいずれかの方法で接続できます。

- 「WPSを使って接続する」(65ページ)
- 「アクセスポイントを検索して接続する」(68ページ)
- 「アクセスポイントを指定して接続する」(70ページ)

WPSを使って接続する

PBC方式またはPIN方式で接続できます。

❖ PBC方式

無線ルーター（アクセスポイント）のWPSボタンを押して接続します。

- WPS（PBC方式）に対応した無線ルーターをお使いください。

1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITYメニューが表示されます。

2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [GENERAL SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

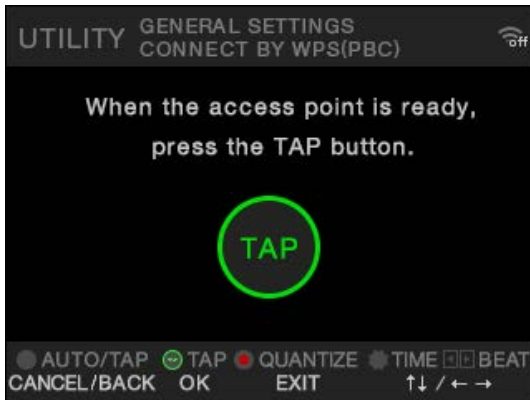
[GENERAL SETTINGS] の設定項目が表示されます。

3 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [Wi-Fi] を選択し、[TAP] ボタンを押す

4 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [CONNECT BY WPS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

5 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [PBC] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[CONNECT BY WPS(PBC)] 画面が表示されます。



6 [TAP] ボタンを押す

[Connecting...] が表示されます。

- [TAP] ボタンを押したあと、120秒以内に次の手順を実行してください。

7 無線ルーターのWPSボタンを押す

接続に成功すると [Success] と表示されます。

- お使いの無線ルーターの取扱説明書を参考に、無線ルーターのWPSボタンを押してください。
- [Failure] と表示された場合は、手順1から操作をやり直すか、ほかの接続方法を利用してください。

❖ PIN方式

本機のPINコードを使用して接続します。

- WPS (PIN方式) に対応した無線ルーターをお使いください。

1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

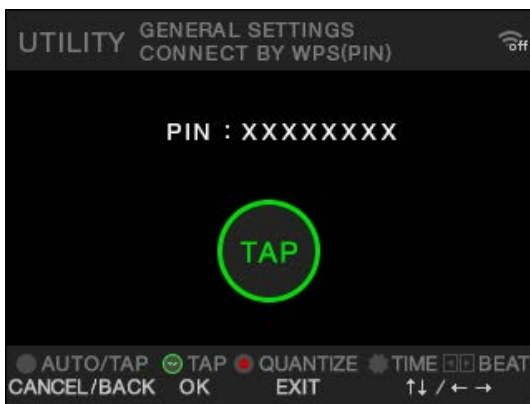
UTILITYメニューが表示されます。

2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [GENERAL SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[GENERAL SETTINGS] の設定項目が表示されます。

- 3 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀/▶] ボタンを押して [Wi-Fi] を選択し、[TAP] ボタンを押す
- 4 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀/▶] ボタンを押して [CONNECT BY WPS] を選択し、[TAP] ボタンを押す
- 5 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀/▶] ボタンを押して [PIN] を選択し、[TAP] ボタンを押す

本機のPINコードが表示されます。



- PINコードは、画面を表示するたびに変わります。

6 [TAP] ボタンを押す

[Connecting...] が表示されます。

- [TAP] ボタンを押したあと、120秒以内に次の手順を実行してください。

7 本機のPINコードを無線ルーターに設定する

接続に成功すると [Success] と表示されます。

- [Failure] と表示された場合は、手順1から操作をやり直すか、ほかの接続方法を利用してください。
- 無線ルーターをWPSモードに設定する方法は、使用する無線ルーターの取扱説明書を参照してください。

アクセスポイントを検索して接続する

- 1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITYメニューが表示されます。

- 2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [GENERAL SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

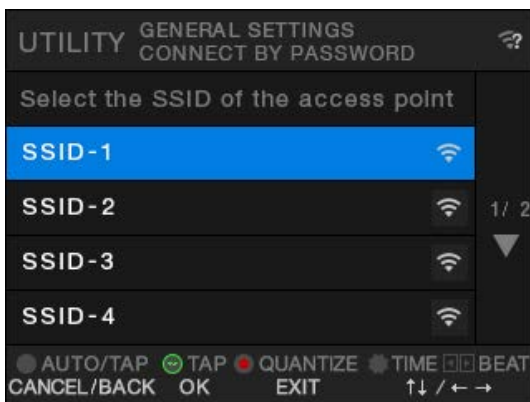
[GENERAL SETTINGS] の設定項目が表示されます。

- 3 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [Wi-Fi] を選択し、[TAP] ボタンを押す

- 4 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [CONNECT BY PASSWORD] を選択し、[TAP] ボタンを押す

- 5 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [SELECT SSID] を選択し、[TAP] ボタンを押す

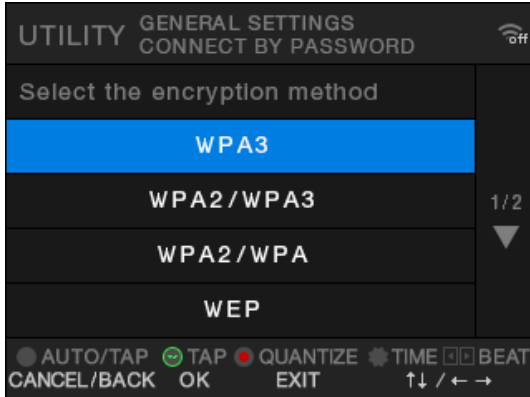
アクセスポイントのリストが表示されます。



- 電波の状況によってはSSIDが検出されないことがあります。その場合は、[AUTO / TAP] ボタンを押して前の画面に戻り、本画面を表示しなおしてください。

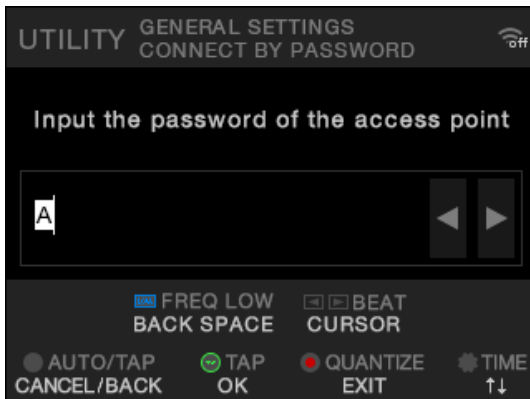
- 6 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して利用するアクセスポイントをハイライトし、[TAP] ボタンを押す

暗号化方式選択画面が表示されます。



- 7 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀/▶] ボタンを押して利用
するアクセスポイントで設定されている暗号化方式を選択し、
[TAP] ボタンを押す

パスワード（セキュリティキー）入力画面が表示されます。



- 暗号化方式がわからないときは、[AUTO] を選択してください。

- 8 パスワード（セキュリティキー）を入力して、[TAP] ボタンを押す

[Connecting...] が表示されます。

接続に成功すると [Success] と表示されます。

- [TIME] ノブと [BEAT ◀/▶] ボタン、および [FX FREQUENCY (LOW)] ボタンを使用して、パスワード（セキュリティキー）を入力します。
- [Failure] と表示された場合は、手順1から操作をやり直すか、ほかの接続方法を利用してください。

アクセスポイントを指定して接続する

- 1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITYメニューが表示されます。

- 2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [GENERAL SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

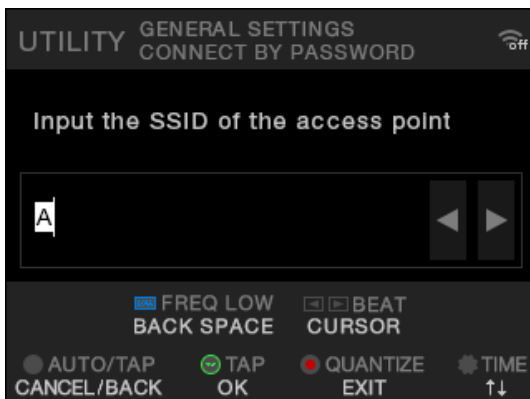
[GENERAL SETTINGS] の設定項目が表示されます。

- 3 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [Wi-Fi] を選択し、[TAP] ボタンを押す

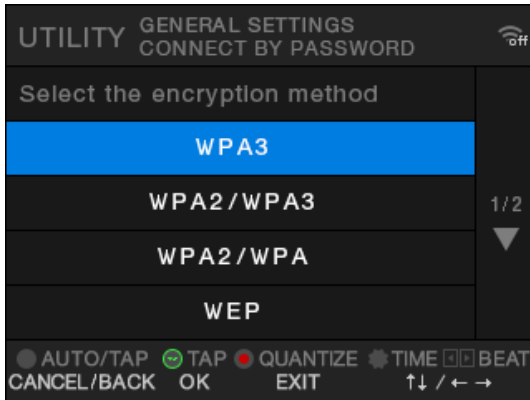
- 4 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [CONNECT BY PASSWORD] を選択し、[TAP] ボタンを押す

- 5 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [MANUAL] を選択し、[TAP] ボタンを押す

SSID指定画面が表示されます。



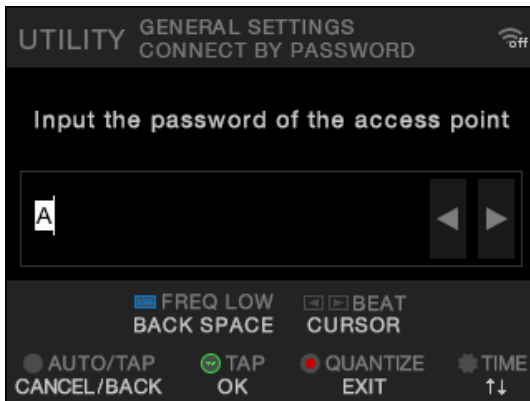
- 6 利用するネットワーク名 (SSID) を入力して、[TAP] ボタンを押す
暗号化方式選択画面が表示されます。



- [TIME] ノブと [BEAT ◀/▶] ボタン、および [FX FREQUENCY (LOW)] ボタンを使用して、ネットワーク名 (SSID) を入力します。

- 7 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀/▶] ボタンを押して利用
するアクセスポイントに設定されている暗号化方式を選択し、
[TAP] ボタンを押す

パスワード (セキュリティキー) 入力画面が表示されます。



- 暗号化方式がわからないときは、[AUTO] を選択してください。

- 8 パスワード (セキュリティキー) を入力して、[TAP] ボタンを押す
[Connecting...] と表示されます。

接続に成功すると [Success] と表示されます。

- [TIME] ノブと [BEAT ◀/▶] ボタン、および [FX FREQUENCY (LOW)] ボタンを使用して、パスワード (セキュリティキー) を入力します。

- [Failure] と表示された場合は、手順1から操作をやり直すか、ほかの接続方法を利用してください。

無線LAN (Wi-Fi) の情報を表示する

1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITYメニューが表示されます。

2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [GENERAL SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[GENERAL SETTINGS] の設定項目が表示されます。

3 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [Wi-Fi] を選択し、[TAP] ボタンを押す

4 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [INFORMATION] を選択し、[TAP] ボタンを押す

無線LANの各種情報 (SSID、IPアドレス、MACアドレス) が表示されます。

- ネットワーク内にDHCPサーバーが存在する場合は、DHCPサーバーからIPアドレスが付与されます。DHCPサーバーが存在しない場合は、本機がIPアドレスを設定します。本機がIPアドレスを設定する場合は、時間がかかります。

LANの情報を表示する

1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITYメニューが表示されます。

2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [GENERAL SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[GENERAL SETTINGS] の設定項目が表示されます。

3 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [LAN] を選択し、[TAP] ボタンを押す

4 [TAP] ボタンを押す

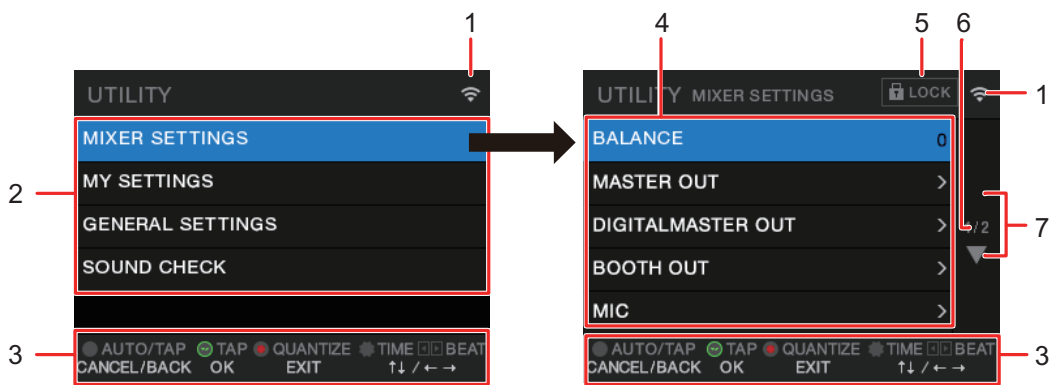
有線LANのIPアドレスとMACアドレスが表示されます。

- ネットワーク内にDHCPサーバーが存在する場合は、DHCPサーバーからIPアドレスが付与されます。DHCPサーバーが存在しない場合は、本機がIPアドレスを設定します。本機がIPアドレスを設定する場合は、時間がかかります。
- LANケーブルを接続していない場合は、IPアドレスは表示されません。

設定

UTILITY設定で本機の設定を変更します。また、あらかじめMY SETTINGS（DJ向けの機能設定）をUSBメモリなどの記録メディアに保存しておくと、DJ交代時などに設定を読み込んで、一括で本機に適用できます。

UTILITY画面



- 無線LAN（Wi-Fi）の状態が表示されます。
 - ：機能オフ
 - ：機能オン、未接続
 - ：機能オン、接続中の電波強度
- UTILITYメニュー（76 ページ）
- 画面操作ボタン表示
- 設定項目（76 ページ）
- LOCK**
[MIXER SETTINGS] の設定項目が変更不可のとき（ロックされているとき）に表示されます。ロック設定は [MIXER SETTINGS] の [LOCK] で変更できます。
- ページ数表示
「現在表示しているページ／全体のページ数」を表示します。
- ▲ / ▼**
[BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して、ページを送り／戻しできます。

設定を変更する

以下は、UTILITY設定を変更する基本的な操作方法です。各説明セクションに記載の操作方法も参照してください。

1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする


UTILITYメニューが表示されます。

2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して設定メニューを選択し、[TAP] ボタンを押す

選択したUTILITYメニューの設定項目が表示されます。

3 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して設定項目を選択し、[TAP] ボタンを押す

- が表示されているときに [TAP] を押すと下位階層を表示します。
- 設定をキャンセルするには、[AUTO / TAP] ボタンを押します。

 「UTILITY設定項目」(76 ページ)

4 設定を変更する

5 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを押す

[UTILITY] 画面が閉じます。

UTILITY 設定項目

❖ MIXER SETTINGS メニュー

*：お買い上げ時の設定

設定項目	説明
BALANCE ¹	出力バランスを調整します。 <ul style="list-style-type: none"> 設定値：L128～0*～R127 X-PAD を使用してバランスを調整することもできます。
MASTER OUT ¹	
PEAK LIMITER	ピークリミッターで、設定値以上のアナログマスター出力を調整するかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 設定値：OFF、21dB*、18dB、15dB、12dB
ATT.	[MASTER 1]、[MASTER 2] 端子から出力する音声の減衰レベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 設定値：-12dB、-9dB、-6dB、-3dB、0dB*
MONO/STEREO	[MASTER 1]、[MASTER 2] 端子から出力する音声の出力方法（モノラル／ステレオ）を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 設定値：MONO、STEREO*
DIGITAL MASTER OUT ¹	
REFERENCE LEVEL	マスターレベルインジケータが [0] dB 点灯時の出力レベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 設定値：-30dBFS、-27dBFS、-24dBFS、-21dBFS*、-18dBFS、-15dBFS、-12dBFS、-9dBFS、-6dBFS マスターレベルインジケータが最大レベル表示でなくても、音声が歪むことがあります。ご注意ください。
SAMPLING RATE	デジタル信号のサンプリングレートを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 設定値：44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz*

設定項目	説明
PEAK LIMITER	<p>[DIGITAL MASTER OUT] 端子から出力する音声の歪みを緩和します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：OFF、ON*
MONO/STEREO	<p>[DIGITAL MASTER OUT] 端子から出力する音声の出力方法（モノラル／ステレオ）を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：MONO、STEREO*
BOOTH OUT ¹	
ATT.	<p>[BOOTH] 端子から出力する音声の減衰レベルを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：-12dB、-9dB、-6dB、-3dB、0dB*
MONO/STEREO	<p>[BOOTH] 端子から出力する音声の出力方法（モノラル／ステレオ）を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：MONO、STEREO*
MUTE WHEN MIC ON	<p>マイクがオンのときに [BOOTH] 端子から出力する音声をミュートするかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：OFF*、ON
MIC	
MIC TO MASTER PEAK LIMITER ¹	<p>マスター出力音声に入力するマイク音声のリミッターを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：0dB、3dB、6dB、9dB、12dB、15dB、18dB、21dB、OFF*
MIC TO BOOTH ATT. ¹	<p>[BOOTH] 端子から出力する音声に入力するマイクの音量を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：-∞、-18dB、-15dB、-12dB、-9dB、-6dB、-3dB、0dB*

設定項目	説明
MIC TO BOOTH PEAK LIMITER	<p>[BOOTH] 端子から出力する音声に入力するマイク音声のリミッターを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：0dB、3dB、6dB、9dB、12dB、15dB、18dB、21dB、OFF*
MIC TO REC OUT EXCLUDE MIC	<p>[REC OUT] 端子から出力する音声にマイクの音声を入力しないかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：OFF*、ON [REC OUT] 端子から出力する音声にマイクの音声を入力するときは [OFF] を、入力しないときは [ON] を選択してください。
MIC PHANTOM LOCK	<p>[MIC 1 PHANTOM ON/OFF] ボタンによるオンの操作にロックをかけるかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：LOCKED*、UNLOCKED
AUTO STANDBY ¹	<p>オートスタンバイ機能を設定します（83 ページ）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：OFF、ON*
LOCK	<p>[MIXER SETTINGS] 設定を変更可能にするかどうか（ロックする／しない）を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：LOCKED、UNLOCKED*
OWNER SETTING	
SAVE	<p>[MIXER SETTINGS] 設定と [MY SETTINGS] 設定を [OWNER SETTING] として、本機に保存します。 [OWNER SETTING] に保存した [MY SETTINGS] 設定は、本機の電源をオンにしたときの初期値になります。</p>
LOAD	<p>本機に保存した [OWNER SETTING]（[MIXER SETTINGS] 設定と [MY SETTINGS] 設定）を呼び出します。</p>

¹ [OWNER SETTING] の [SAVE] を実行すると、設定が本機に保存されます。

❖ MY SETTINGS メニュー

*：お買い上げ時の設定

設定項目	説明
MY SETTINGS LOAD	記録メディアから MY SETTINGS 情報を呼び出します (85 ページ)。
MY SETTINGS SAVE	MY SETTINGS 情報を記録メディアに保存します (84 ページ)。
LOAD STORED BEAT FX SETTING	BEAT FX の拍と [FX FREQUENCY (LOW, MID, HI)] の設定を MY SETTINGS の初期情報に戻します。
STORE BEAT FX SETTING	現在の BEAT FX の拍と [FX FREQUENCY (LOW, MID, HI)] の設定を MY SETTINGS の初期情報として保存します。
HEADPHONES A ¹	
	[HEADPHONES A] の出力音声 (MONO SPLIT / ステレオ) を設定します。
MONO SPLIT	<ul style="list-style-type: none"> 設定値：STEREO*、MONO SPLIT、NONE [NONE] に設定すると、MY SETTINGS を読み込んだときにヘッドホンの設定が変化しません。
HEADPHONES B ¹	
	[HEADPHONES B] の出力音声 (MONO SPLIT / ステレオ) を設定します。
MONO SPLIT	<ul style="list-style-type: none"> 設定値：STEREO、MONO SPLIT、NONE* [NONE] に設定すると、MY SETTINGS を読み込んだときにヘッドホンの設定が変化しません。
BEAT FX QUANTIZE ¹	
	BEAT FX のクオンタイズ機能を設定します。
BEAT FX QUANTIZE	<ul style="list-style-type: none"> 設定値：OFF、ON*

設定項目	説明
MIC LOW CUT ¹	
MIC LOW CUT	<p>マイク音声の低音域カット機能を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：OFF、ON (for MC) *
MIC ECHO BEATS ¹	<p>マイクエコーの拍数を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：1/8、1/4、1/2、3/4、1*、2、4、8
TALKOVER ¹	
MODE	<p>TALKOVER のモードを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：ADVANCED*、NORMAL [ADVANCED] は、[LEVEL] ノブの設定値にしたがって、MIC チャンネル以外の音声の中音域だけを減衰して出力します。 [NORMAL] は、[LEVEL] ノブの設定値にしたがって、MIC チャンネル以外の音声を減衰して出力します。
LEVEL	<p>TALKOVER の音声減衰レベルを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：-∞、-24dB、-18dB*、-12dB、-6dB
MIDI ¹	
CH	<p>MIDI チャンネルを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：1*~16
BUTTON TYPE	<p>MIDI 信号の送信方法を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：TOGGLE*、TRIGGER
BRIGHTNESS ¹	
DISPLAY	<p>本体表示部の輝度を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：1~5*、WHITE
INDICATOR	<p>LED の輝度を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：1~3*

設定項目	説明
DELAY^[2], ECHO^[2], PING PONG^[2], SPIRAL^[2]	
BEAT	• 設定値：1/16、1/8、1/4、1/3、1/2、2/3、3/4、1*、2、4、8、16
FX FREQUENCY HI, MID, LOW	• 設定値：OFF、ON*
HELIX^[2], TRANS^[2], ROLL^[2]	
BEAT	• 設定値：1/16、1/8、1/4、1/2、1*、2、4、8、16
FX FREQUENCY HI, MID, LOW	• 設定値：OFF、ON*
REVERB^[2]	
BEAT	• 設定値：1、10、20、30、40、50*、60、70、80、90、100
FX FREQUENCY HI, MID, LOW	• 設定値：OFF、ON*
FLANGER^[2], PHASER^[2], FILTER^[2]	
BEAT	• 設定値：1/16、1/8、1/4、1/2、1、2、4*、8、16、32、64
FX FREQUENCY HI, MID, LOW	• 設定値：OFF、ON*
TRIPLET FILTER^[2]	
BEAT	• 設定値：1/12、1/6、1/3、2/3、4/3*、8/3、12/3
FX FREQUENCY HI, MID, LOW	• 設定値：OFF、ON*
TRIPLET ROLL^[2]	
BEAT	• 設定値：1/12、1/6、1/3*、2/3、4/3、8/3、12/3
FX FREQUENCY HI, MID, LOW	• 設定値：OFF、ON*

設定項目	説明
MOBIUS ²	
BEAT	<ul style="list-style-type: none"> 設定値：1/16、1/8、1/4、1/2、1、2、4*、8、16、32、64、-64、-32、-16、-8、-4、-2、-1、-1/2、-1/4、-1/8、-1/16
FX FREQUENCY HI, MID, LOW	<ul style="list-style-type: none"> 設定値：OFF、ON*

① [MIXER SETTINGS] の [OWNER SETTING] で [SAVE] を実行すると、設定が本機に保存されます。

② [LOAD STORED BEAT FX SETTING] を実行したときの、BEAT FXの設定値を設定します。機能の詳細については、「BEAT FXの種類と設定方法」(53 ページ)を参照してください。

❖ GENERAL SETTINGS メニュー

*：お買い上げ時の設定

設定項目	説明
Wi-Fi	
Wi-Fi ON/OFF	<p>無線 LAN (Wi-Fi) を使用するかどうかを設定します (64 ページ)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：OFF*、ON
CONNECT BY WPS	<p>無線ルーター (アクセスポイント) の WPS ボタンを使って本機と接続します (65 ページ)。</p>
CONNECT BY PASSWORD	<p>無線ルーターのアクセスポイントを使って本機と接続します (68 ページ、70 ページ)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値：SELECT SSID、MANUAL [SELECT SSID] は、検索して表示されたアクセスポイントのリストから無線ルーターを選択して接続します (68 ページ)。 [MANUAL] は、使用する無線ルーターのアクセスポイントを指定して接続します (70 ページ)。
INFORMATION	<p>無線 LAN (Wi-Fi) の SSID、IP アドレス、MAC アドレスを表示します (72 ページ)。</p>

設定項目	説明
LAN	
INFORMATION	有線 LAN の IP アドレスと MAC アドレスを表示します (73 ページ)。

❖ SOUND CHECK メニュー

☞ 「サウンドチェックを行う」 (86 ページ)

* : お買い上げ時の設定

設定項目	説明
SOURCE	<p>発生させる信号の種類 (ホワイトノイズ / サイン波) を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値 : NOISE*、SINE [NOISE] は、ホワイトノイズを発生させます。 [SINE] は、サイン波を発生させます。 [SINE] 選択時は、X-PAD を使用して、あらかじめ決められている周波数を設定することができます。
STEREO	<p>信号を発生させるチャンネル (左右) を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値 : L、L+R*、R [L] は、左のチャンネルのみ信号を発生させます。 [L+R] は、左右のチャンネルで信号を発生させます。 [R] は、右のチャンネルのみ信号を発生させます。
VOLUME	発生させる信号の音量を調整します。
OUTPUT	発生させる信号の出力先を選択します。

オートスタンバイ機能

[**AUTO STANDBY**] を [**ON**] に設定しているときに、以下の状態で本機を操作せずに 10 時間経過すると、自動的にスタンバイモードになります。

- 本機の各チャンネルに音声信号が入力されていない。
- PRO DJ LINK 接続していない。

[**QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)**] ボタンを押すと、スタンバイ状態を解除できます。

- 本機は、オートスタンバイ機能を [ON] に設定して出荷しています。
- オートスタンバイ機能を使用しないときは、[AUTO STANDBY] を [OFF] に設定してください。

MY SETTINGS を記録メディアに保存する

本機に接続した記録メディア（USBメモリ）や、PRO DJ LINKで接続している rekordbox に保存できます。

1 記録メディアを接続する

☛ 「コントロールパネル／本体フロントの端子に接続する」（23 ページ）

2 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITYメニューが表示されます。

3 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [MY SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[MY SETTINGS] の設定項目が表示されます。

4 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [MY SETTINGS SAVE] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[SAVE] 画面に記録メディアが表示されます。

5 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して設定を保存する記録メディアを選択し、[TAP] ボタンを押す

MY SETTINGS 設定が記録メディアに保存されます。

- 設定をキャンセルするには、[AUTO / TAP] ボタンを押します。

6 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを押す

[UTILITY] 画面が閉じます。

記録メディアから MY SETTINGS を呼び出す

PRO DJ LINK で接続しているほかのマルチプレーヤーにセットされている記録メディアや、rekordbox から呼び出すこともできます。

1 記録メディアを接続する

☞ 「コントロールパネル／本体フロントの端子に接続する」(23 ページ)

2 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITY メニューが表示されます。

3 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [MY SETTINGS] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[MY SETTINGS] の設定項目が表示されます。

4 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [MY SETTINGS LOAD] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[LOAD] 画面に記録メディアが表示されます。

5 [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して設定を呼び出す記録メディアを選択し、[TAP] ボタンを押す

MY SETTINGS 設定を呼び出します。

- 設定をキャンセルするには、[AUTO / TAP] ボタンを押します。

6 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを押す

[UTILITY] 画面が閉じます。

サウンドチェックを行う

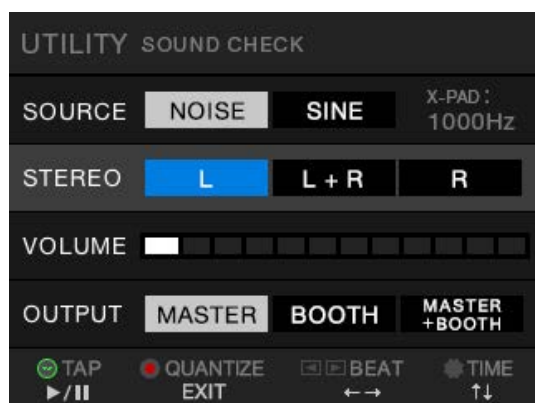
本機から信号を発生させて、接続されている機器のチェックを行います。

1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを長押しする

UTILITYメニューが表示されます。

2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回す、または [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して [SOUND CHECK] を選択し、[TAP] ボタンを押す

[SOUND CHECK] 画面が表示されます。



3 [TIME] ノブを回して設定項目を選択する

4 [BEAT ◀ / ▶] ボタンを押して、設定値を選択する

🔄 「SOUND CHECKメニュー」(83 ページ)

5 [TAP] ボタンを押す

音声を発生させます。

- 音声を停止させるには、もう一度 [TAP] ボタンを押します。

6 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを押す

[UTILITY] 画面が閉じます。

初期設定に戻す

- 1 [QUANTIZE / UTILITY (WAKE UP)] ボタンを押しながら、[⏻] ボタンを押す

[FACTORY RESET] 画面が表示されます。



- 2 [BEAT FX] セクションの [TIME] ノブを回して [YES] を選択し、[TAP] ボタンを押す
- 3 [⏻] ボタンを押して、電源をオフにする

お買い上げ時の設定に戻ります。

スペック

仕様

一般

電源	AC 100 V、50 Hz / 60 Hz
消費電力	46 W
本体質量	10.2 kg
最大外形寸法	(W × D × H) 407.4 × 458.3 × 107.9 mm
最大外形寸法 (無線アンテナ直立時)	(W × D × H) 407.4 × 458.3 × 140.7 mm
許容動作温度	+5 °C ~ +35 °C
許容動作湿度	5 % ~ 85 % (結露のないこと)

オーディオ部

サンプリングレート	96 kHz
MASTER, BOOTH, REC, SEND D/A コンバーター	32bit
CH入力A/D コンバーター	32bit
その他のA/D, D/A コンバーター	24bit
周波数特性	
LINE	20 Hz ~ 40 kHz
S/N比 (定格出力時、A-WEIGHTED)	
USB, Digital IN	114 dB
PHONO	88 dB
LINE	105 dB
MIC 1, MIC 2	79 dB
全高調波歪率 (LINE — MASTER 1、20 Hz ~ 40 kHz BW)	0.005 %
基準入力レベル / 入力インピーダンス	
PHONO	-52 dBu / 47 kΩ
LINE	-12 dBu / 47 kΩ
MIC 1, MIC 2	-57 dBu / 3.5 kΩ
RETURN	-12 dBu / 47 kΩ
最大入力レベル	
PHONO	-17.8 dBu
LINE	+15 dBu
MIC 1, MIC 2	+2 dBu
RETURN	+12 dBu

基準出力レベル / 負荷インピーダンス / 出力インピーダンス

MASTER 1	+6 dBu / 10 kΩ / 360 Ω
MASTER 2	+2 dBu / 10 kΩ / 700 Ω
REC OUT	-8 dBu / 10 kΩ / 700 Ω
BOOTH	+6 dBu / 10 kΩ / 360 Ω
SEND	-6 dBu / 10 kΩ / 700 Ω
PHONES	+8 dBu / 32 Ω / 1 Ω以下

定格出力レベル / 負荷インピーダンス

MASTER 1	+25 dBu / 10 kΩ
MASTER 2	+21 dBu / 10 kΩ
BOOTH	+25 dBu / 10 kΩ

クロストーク

LINE	82 dB
------------	-------

チャンネルイコライザー特性

HI.....	-26 dB ~ +6 dB (20 kHz)
MID.....	-26 dB ~ +6 dB (1 kHz)
LOW.....	-26 dB ~ +6 dB (20 Hz)

マイクイコライザー特性

HI.....	-12 dB ~ +12 dB (10 kHz)
LOW.....	-12 dB ~ +12 dB (100 Hz)

BOOTH MONITOR イコライザー特性

HI.....	-12 dB ~ +6 dB (10 kHz)
LOW.....	-12 dB ~ +6 dB (100 Hz)

入力 / 出力端子

PHONO 入力端子

RCA ピンジャック	4 系統
------------------	------

LINE 入力端子

RCA ピンジャック	4 系統
------------------	------

MIC 1 入力端子 (XLR / TRS)

XLR コネクタ & 1/4" TRS ジャック	1 系統
--------------------------------	------

電源供給 48 V / 10 mA以下

MIC 2 入力端子 (TRS)

1/4" TRS ジャック	1 系統
---------------------	------

RETURN 入力端子 (TS)

1/4" TS ジャック	1 系統
--------------------	------

DIGITAL IN 同軸入力端子

RCA ピンジャック	4 系統
------------------	------

MASTER 出力端子	
XLR コネクタ	1 系統
RCA ピンジャック	1 系統
BOOTH 出力端子 (TRS)	
1/4" TRS ジャック	1 系統
REC OUT 出力端子	
RCA ピンジャック	1 系統
SEND 出力端子 (TS)	
1/4" TS ジャック	1 系統
DIGITAL MASTER OUT 同軸出力端子	
RCA ピンジャック	1 系統
PHONES 出力端子	
1/4" ステレオジャック	2 系統
3.5 mm ステレオミニジャック	2 系統
USB 端子	
USB Type-A	1 系統
	電源供給 5 V / 2.1 A 以下
USB Type-B / USB Type-C	2 系統
LINK 端子	
LAN 端子 (100BASE-TX)	1 系統

無線 LAN 部

対応規格	IEEE 802.11 a/b/g/n/ac
使用周波数帯域	2.4 GHz / 5 GHz 帯

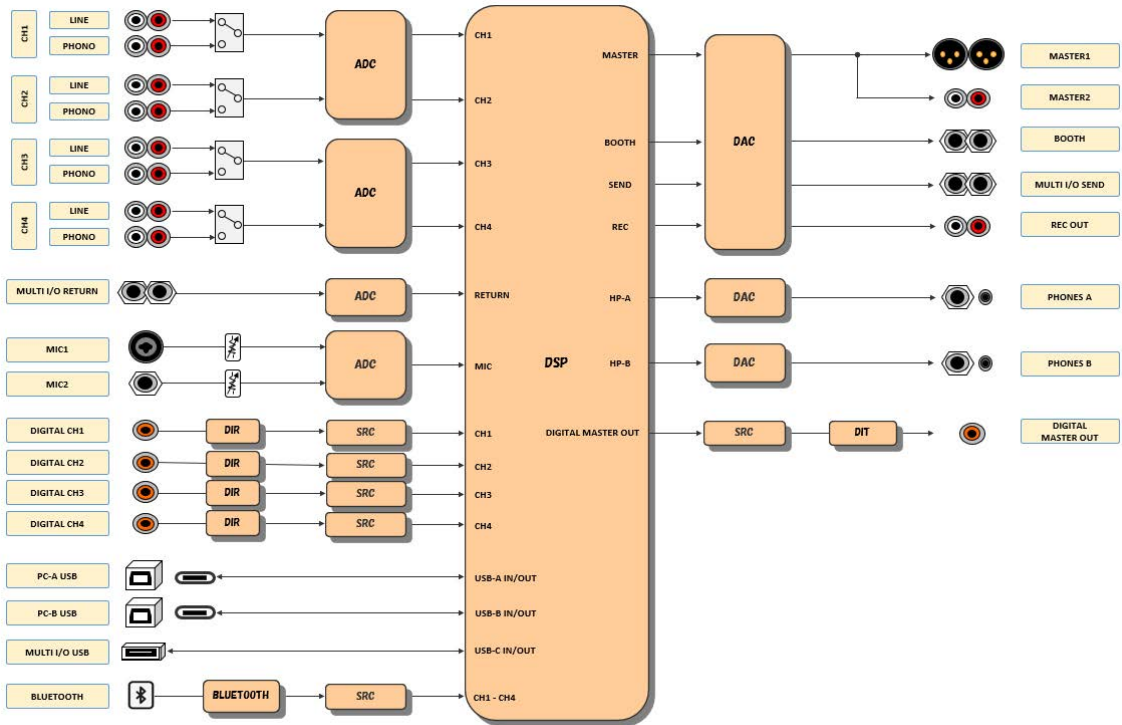
Bluetooth 部

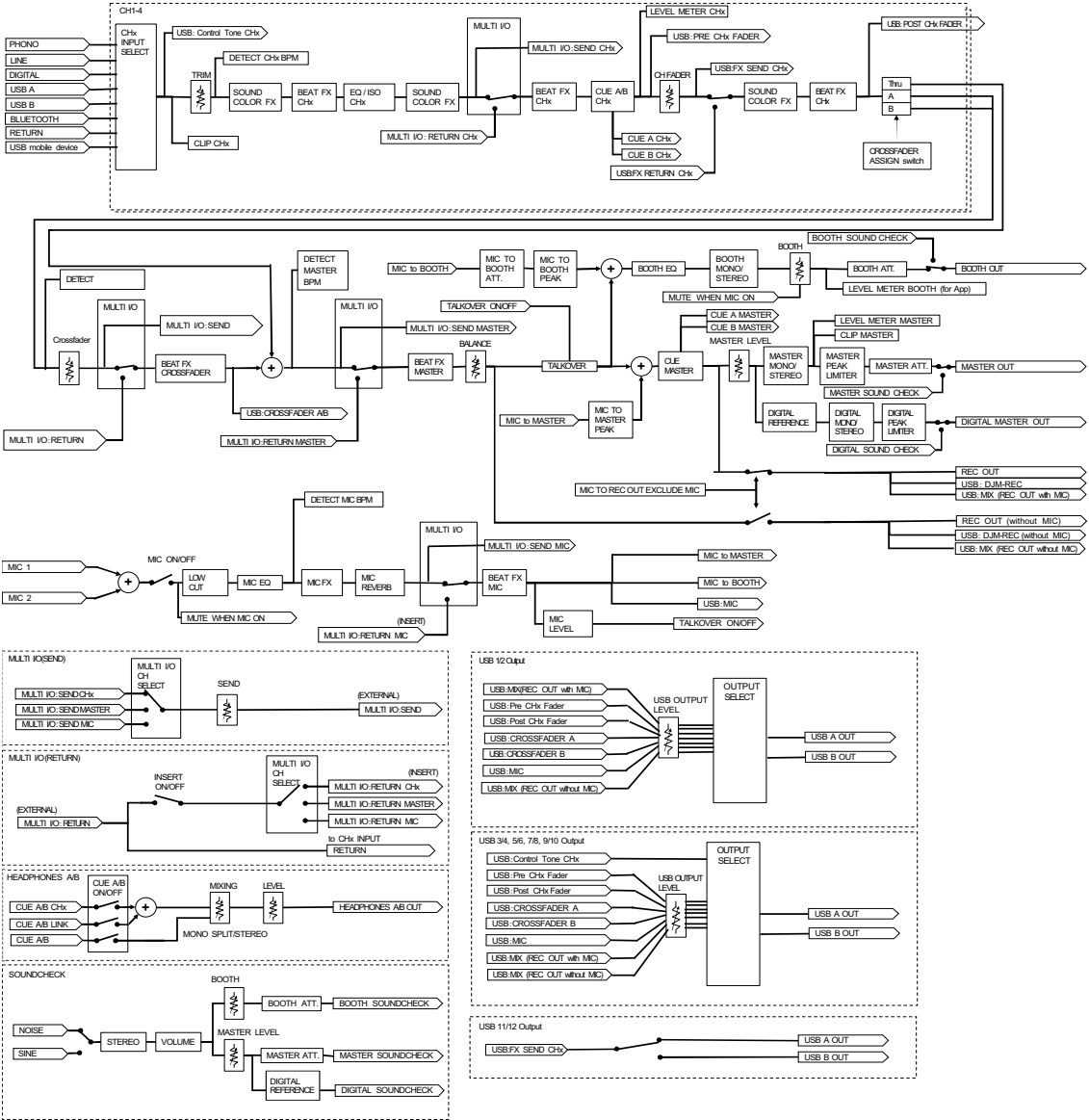
無線方式	Bluetooth Ver.5.0
最大通信距離	見通しの良い状態で約 10 m*
使用周波数帯域	2.4 GHz 帯
変調方式	FHSS (周波数ホッピングスペクトラム拡散方式)
対応コーデック	SBC、AAC

* 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ブロックダイアグラム





その他

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、下記の項目および、Pioneer DJ サポートページから [DJM-A9] の [よくある質問 (FAQ)] を確認してください。


pioneerdj.com/support/

- 本機と接続している機器も確認してください。
- 電源を入れなおすと正常に動作することがあります。

それでも正常に動作しないときは、「使用上のご注意」をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

電源

❖ 本機の電源が入らない

- 電源コードが正しく接続されているか確認してください。
- 本体リア部の  ボタンを押して、電源をオンにしてください。

音声出力

❖ 音が出ない、音が小さい

- 入力切替えスイッチが正しく設定されているか確認してください。
- 接続ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 端子やプラグの汚れを確認し、汚れを拭き取ってから接続してください。
- UTILITY設定で、[MASTER OUT] の [ATT.] の設定を変更してください。

❖ デジタル音声が出力できない

- UTILITY設定で、[DIGITAL MASTER OUT] の [SAMPLING RATE] 設定が接続機器の仕様と合っているか確認してください。

❖ 音が歪む

マスター 音声：

- [MASTER] セクションの [LEVEL] ノブで、マスターレベルインジケータの [0] dB 付近がピークレベルで点灯するように調整してください。
- UTILITY設定で、[MASTER OUT] の [ATT.] の設定を [-3dB] ~ [-12dB] に設定してください。

チャンネル入力音声：

- [TRIM] ノブで、チャンネルレベルインジケータの [0] dB 付近がピークレベルで点灯するように調整してください。

❖ クロスフェードが効かない

- [CROSSFADER ASSIGN (A, THRU, B)] 切替えスイッチが正しく設定されているか確認してください。

エフェクト

❖ BEAT FX が効かない

- エフェクトを加える音域の [FX FREQUENCY (HI, MID, LOW)] ボタンが点灯しているか確認してください。

❖ SOUND COLOR FX が効かない

- [COLOR] ノブが適切な位置に設定されているか確認してください。
- [PARAMETER] ノブが適切な位置に設定されているか確認してください。

❖ マイクエフェクトが効かない

- [MIC FX PARAMETER] ノブが適切な位置に設定されているか確認してください。

❖ MULTI I/Oに接続されている外部エフェクターまたはモバイルデバイスが効かない

- [CH SELECT] ボタンで、エフェクトを加えるチャンネルを選択してください。
- 外部エフェクターが [SEND] 端子と [RETURN] 端子に正しく接続されているか確認してください。
- モバイルデバイス接続用端子 (USB 端子) にモバイルデバイスが正しく接続されているか確認してください。また、モバイルデバイス上で対応アプリケーションを起動してください。
- [INSERT SOURCE] 切替えスイッチが正しく設定されているか確認してください。

- [INSERT] ボタンがオンになっているか確認してください。

❖ 外部エフェクターの音声が歪む

- 外部エフェクターの音量が適切に設定されているか確認してください。

❖ テンポ (BPM) が測定できない、または測定値がおかしい

- チャンネルレベルインジケータの [0] dB 付近がピークレベルで点灯するように [TRIM] ノブを調整してください。
- 楽曲によってはテンポ (BPM) を測定できないことがあります。[TAP] ボタンを使って手動で設定してください。

❖ 測定したテンポ (BPM) の値が楽曲の情報に記載されている値と異なる

- BPM の測定法が異なるため、異なる値を示すことがあります。

MIDI

❖ MIDI コントロールできない

- [MIDI ON/OFF] ボタンを押して、MIDI をオンにしてください。
- 本機からソフトウェアを操作するときは、本機の MIDI メッセージをお使いのソフトウェアにアサインしてください。詳細については、お使いのソフトウェアの取扱説明書を参照してください。


接続

❖ PC / Mac に接続しても本機が認識されない、USB 接続インジケータがゆっくり (1 秒周期で) 点滅している

- お使いの PC / Mac に専用ソフトウェアをインストールしてください。インストール済みのときは、再度インストールしてください。

❖ PC / Mac の音声が本機から出力されない

- PC / Mac が正しく接続されているか確認してください。
- 本機と PC / Mac は、直接 USB ケーブルで接続することを推奨します。
- USB ハブを使用する場合は、お使いになる PC / Mac のメーカー推奨製品を使用してください。

- すべてのUSBハブの動作を保証するものではありません。
- 音声出力デバイス設定で、本機を選択してください。詳細については、お使いのソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
- 入力切替えスイッチを [ A, B] に設定してください。

❖ ターンテーブルを本機の [PHONO] 端子に接続すると音が歪む、[TRIM] ノブを回してもチャンネルレベルインジケータの点灯が変わらない

- 接続しているターンテーブルが、フォノイコライザー内蔵かどうか確認してください（フォノイコライザー内蔵のターンテーブルは [LINE] 端子に接続してください）。
- ターンテーブルに PHONO / LINE 切替えスイッチがある場合は、PHONO に切り替えてください。
- ターンテーブルと本機の間接続されている PC / Mac 用のオーディオインターフェイスがラインレベルのときは、[LINE] 端子に接続してください。

Bluetooth

❖ 本機と Bluetooth 機器を接続できない

- 本機と Bluetooth 機器の電源を入れ直してから、再度ペアリング操作を行ってください。

❖ 音が途切れる

- 本機と Bluetooth 機器の距離が離れている場合は、距離を近づけてください。
- 本機と Bluetooth 機器の間に障害物がある場合は、障害物を取り除いてください。

無線 LAN (Wi-Fi)

❖ WPS を使って接続できない

- お使いの無線ルーター（アクセスポイント）が WPS に対応しているか確認してください。対応していない場合は、ほかの接続方法を使用してください。

❖ アクセスポイントに接続できない

- ネットワーク名（SSID）、パスワード、暗号化方式が正しく設定されているか確認してください。ネットワークの設定と本機の設定を合わせてください。

❖ アクセスポイントが見つからない

- 本機と無線ルーター（アクセスポイント）の距離が離れている場合は、距離を近づけてください。
- 本機と無線ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がある場合は、障害物を取り除いてください。

液晶画面について

- 液晶画面の中に小さな黒い点や明るく光る点（輝点）が現れることがありますが、液晶特有の現象で故障ではありません。
- 寒い場所で使用する際は、本機の電源をオンにしたあと液晶画面が暗いことがあります。時間がたつと正常な明るさに戻ります。
- 液晶画面に直射日光が当たって画面表示が見えにくいときは、直射日光をさえぎってください。

クリーニングについて

液晶画面が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。

- 有機溶剤・酸・アルカリ類は使用しないでください。

商標および登録商標について

- rekordbox™ は、AlphaTheta 株式会社の商標または登録商標です。
- PRO DJ LINK™ は、AlphaTheta 株式会社の商標または登録商標です。
- Mac、macOS および Finder は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH. の商標または登録商標です。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、AlphaTheta 株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- Wi-Fi は Wi-Fi Alliance の登録商標です。

その他記載されている商品名、技術名および会社名などは、各社の商標または登録商標です。

MP3の利用について

本製品は非営利的使用のためのみにライセンスされており、営利目的での（収益が発生するような）、実際の放送（地上波放送・衛星放送・有線放送・あるいは他のメディアを利用した放送）、インターネットやイントラネット（企業内ネット）あるいは他のネットワークを利用した放送・ストリーミング、またはその他の電子的情報を提供するシステム（音楽の有料配信など）のためには、ライセンスされておられません。このような使用には、個別にライセンスを取得する必要があります。詳しくは、<http://www.mp3licensing.com> をご参照ください。

ソフトウェアのライセンス

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾（ライセンス）について記載しています。正確な内容を保持するため、原文（英語）を記載しています。

Copyright © 2010 Texas Instruments Incorporated - <http://www.ti.com/>

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of Texas Instruments Incorporated nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS «AS IS» AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

— The curl license

This software includes open source software codes licensed under the Curl license.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1996 - 2021, Daniel Stenberg, daniel@haxx.se, and many contributors, see the THANKS file.

All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

— PicoJSON - a C++ JSON parser / serializer

This software includes open source software codes licensed under BSD 2-Clause "Simplified" License.

Copyright 2009-2010 Cybozu Labs, Inc.

Copyright 2011-2014 Kazuho Oku

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 1999-2007, The Board of Trustees of the University of Illinois

All Rights Reserved.

lperf performance test

Mark Gates
Ajay Tirumala
Jim Ferguson
Jon Dugan
Feng Qin
Kevin Gibbs
John Estabrook
National Laboratory for Applied Network Research
National Center for Supercomputing Applications
University of Illinois at Urbana-Champaign
<http://www.ncsa.uiuc.edu>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software (lperf) and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimers.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimers in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the names of the University of Illinois, NCSA, nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this Software without specific prior written permission. THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE CONTRIBUTORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

LICENSE ISSUES

=====

The OpenSSL toolkit stays under a double license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit.

See below for the actual license texts.

OpenSSL License

=====

Copyright (c) 1998-2019 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

=====

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eyay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

wpa_supplicant and hostapd

Copyright (c) 2002-2019, Jouni Malinen <j@w1.fi> and contributors
All Rights Reserved.

See the README file for the current license terms.

This software was previously distributed under BSD/GPL v2 dual license terms that allowed either of those license alternatives to be selected. As of February 11, 2012, the project has chosen to use only the BSD license option for future distribution. As such, the GPL v2 license option is no longer used. It should be noted that the BSD license option (the one with advertisement clause removed) is compatible with GPL and as such, does not prevent use of this software in projects that use GPL.

Some of the files may still include pointers to GPL version 2 license terms. However, such copyright and license notifications are maintained only for attribution purposes and any distribution of this software after February 11, 2012 is no longer under the GPL v2 option.

Apache

Copyright (c) 2009-2019 ARM Limited. All rights reserved.

SPDX-License-Identifier: Apache-2.0

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the License); you may not use this file except in compliance with the License.

You may obtain a copy of the License at

www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an AS IS BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

BSD

The BSD-3-Clause License

Copyright (c) 2015, Freescale Semiconductor, Inc.

Copyright 2016-2020 NXP

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the copyright holder nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

著作権

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- CDなどから録音される音楽は、各国の著作権法ならびに国際条約で保護されています。また、録音した者自身が、それを合法的に使用するうえでのすべての責任を負います。
- インターネットなどからダウンロードされる音楽を取り扱う際は、ダウンロードした者自身が、ダウンロードサイトとの契約に則ってそれを使用するうえでのすべての責任を負います。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

© 2022 AlphaTheta 株式会社 禁無断転載
<DRI1794-A>